

2021（令和3）年度

# 千葉県NIE実践報告書

(*Newspaper in Education* = 教育に新聞を)



船橋市立法典西小学校  
浦安市立明海南小学校  
流山市立八木南小学校  
東金市立福岡小学校  
木更津市立東清小学校  
栄町立安食小学校  
市川市立宮久保小学校  
習志野市立津田沼小学校  
野田市立北部小学校  
酒々井町立酒々井小学校  
長柄町立長柄小学校  
千葉市立緑が丘中学校  
香取市立新島中学校  
千葉市立新宿中学校  
市原市立市原中学校  
千葉県立国府台高等学校  
千葉県立四街道北高等学校  
市川市立須和田の丘支援学校

千葉県 NIE 推進協議会

# 新聞に親しみ、学習を整理する活動を目指して

船橋市立法典西小学校 小路谷 学

## 1 はじめに

本校は令和2年度・令和3年度の2年間、NIE推進校の指定を受けている。2年目となる本年度は、様々な教科で新聞を活用することを課題として実践に取り組んだ。新聞記事の内容を取り上げたり、新聞形式で学習をまとめたり、各学年・学級の実態に即した活動を行った。本報告では、4年生の取り組みを中心にまとめていく。

## 2 実践状況

実践内容は、以下の6点に分けられる。

### (1) 外部講師の活用

4年生の国語科として、東京新聞の出前授業を実施した。東京新聞NIEアドバイザーを講師に招き、紙面全体と各記事の構成、記事の読み方などを指導して頂いた。出前授業では、新聞の読み方だけでなく、新聞の書き方も教わった。今回は、「自分の得意なこと・好きなこと」をテーマに、自己紹介を行う新聞を書く活動を行った。

### (2) 記事のスクラップ・紹介

本校には、年間を通して4年生以上の各学級分の朝刊新聞(朝日・読売・千葉日報)が届く。また、NIE実践指定校となっており、期間限定で産経・東京・日本経済新聞が届く。

社会科や総合的な学習の時間を活用し各紙を読み比べ、自分が気になった記事を切り取り、プリントに貼り付けてスクラップを作る。スクラップには、記事の紹介を書いたり、初めて知ったことや考えたことを書いたりする。作成したスクラップは、日直のスピーチとして紹介する。

### (3) 学習する際の資料としての活用

各教科の学習に関連する新聞記事を、担任が児童に紹介する。紹介する記事は、日付が新しいものもあれば古いものもある。日付にこだわらず、児童の学習に関連する内容を紹介するようにしている。

### (4) 学習内容を新聞形式にまとめる

新聞を読むだけでなく、学習の整理をするために、新聞の形式でまとめを書く活動を行っている。外部講師の指導を基に、見出しやリード文、割り付けを考える。学期の前半は、新聞の割り付けが決まっているプリントを使うが、後半は割り付けも自分で行う児童が増えてくる。

### (5) コンクールへの出品

4年生は、学習のまとめとして作成した新聞を「全国小・中学校・PTA新聞コンクール」に応募した。いくつかの部門があり、4年生は「学習新聞」の部に応募した。

### (6) 新聞社の教材活用

4年生は毎週金曜日に、読売新聞が発行している「読売新聞ワークシート通信」を宿題にしている。このワークシートは、毎週水曜日に更新され、タイムリーな内容を紹介している。記事を読むと分かる問題と、自分で調べたり考えたりする問題がある。難易度が学年で分かれており、4年生は「中学年」のワークシートに取り組んでいる。

### 3 結果

#### (1) 外部講師の活用

外部講師の授業では、新聞の作りや読み方に関する基本的な内容を扱ってくれる。新聞学習の導入として最適だと考える。本年度の授業では、「自分の得意なこと・好きなこと」をテーマに、実際に新聞記事を書く活動も行った。講師が適宜指導をしてくれるので、児童も楽しみながら新聞記事を作成することができた。この授業で、見出しの付け方やリードの書き方を学ぶことができた。

#### (2) 記事のスクラップ・紹介

新聞記事のスクラップ・紹介の活動では、日々のニュースに対する児童の関心を高めることができた。自分の気になるテーマを深掘りすることはもちろん、友達のスクリップ紹介を聞くことで、新しい分野に視野を広げることもできた。記事を紹介し合うことで、お互いの興味関心の幅を広げることができた。

#### (3) 学習する際の資料としての活用

日々の学習の中で、その時に学習している単元と関わりのある新聞記事を紹介することができた。特に社会科や理科、総合的な学習の時間では、導入やまとめの際に記事を紹介することが多かった。また、新聞には多様な分野の記事が載っている。社会科や理科に限らず、様々な教科で紹介することも考えられる。

#### (4) 学習内容を新聞形式にまとめる

4年生では、総合的な学習の時間を中心に、新聞作りに取り組んだ。内容としては、節水に関する学習やSDGsに関連した古着の回収と調べ学習、そして自分の生い立ちを振り返る学習である。テーマはそれぞれ異なるが、外部講師の指導

を基に、読み手を惹きつける見出しを考えたり、大まかな説明から細かい説明に移っていく記事の構造を意識したりすることができた。新聞の形式に学習をまとめることで、児童の思考も整理され、学習の締めくくりとしてよかったと考えられる。また、読み手を意識することで、読んで分かりやすい記事を書こうと心掛けることができた。

#### (5) コンクールへの出品

SDGsの調べ学習をまとめた新聞を、前述のコンクールに応募した。結果そのものよりも、コンクールに向けて取り組むことで、新聞のレベルを上げようと努力することができた。

#### (6) 新聞社の教材活用

ワークシートに取り組むことで、ニュースへの関心が高まるだけでなく、記事を読み取る力も養うことができた。国語科の読み取りの学習とも関連させることができるので、継続することが大切だと考える。ワークシートの問題は、基本的には紹介されている記事を読めば答えることができるものになっている。国語科でも、文章を読み取る指導を行うが、新聞の記事を読むことで、楽しみながら読み取りの力を養うことができた。

### 4 考察

(1)～(6)の取り組みを通して、次のことが考えられる。一つ目は、新聞という形式は学習のまとめとして有効であるということである。特に見出しやリード文を考えることは、紹介する内容のエッセンスを抽出することであり、その学習のポイントに相当する。学んだ内容を自分の言葉で言い換える活動として、新聞は役に立つと考えられる。ただし、新聞を書くことが目的なのではなく、あくまで道具・形式として活用することが

重要であると考え。2つ目は、文章を読み取る力を養うことができるということである。新聞記事には、事実関係についての情報が中心となって書かれている。新聞記事を読むことで、誰が・いつ・どこで・何を・なぜ・どのようにしたのか、という点を意識して読む力を養うことができると考えられる。

## 5 まとめ

新聞を活用して学習活動に取り組むことで、学習をまとめることができ、文章を読み取る力を養うこともできた。今年度の取り組みを、無理のない範囲で継続していくことが大切である。

また、今年度は重点的に取り組むことができなかった活動を、今後行っていきたいと考えている。その一つが、新聞各紙の読み比べである。各紙の論調を知った上で、何を伝えているのか、どのような言葉選びがなされているのかを読み比べると、得られる情報の量と質も向上すると思われる。

# 「2年の実践を通して」

浦安市立明海南小学校 鈴木 裕貴

## 1 はじめに

本校は、令和2年度よりN I E教育推進の指定を受け、今年度が実践二年目である。

本校の児童の実態として、自分の考えを友達に伝えることに苦手意識がある。その苦手意識を改善するための方法の一つにしたいという意図で始めた。

1年目は特に「新聞に親しむ」ということを意識して取り組み、今年度は「新聞にまとめる」ということを目標として、学習活動を考えた。

## 2 実践状況

### ・国語科「自分の考えを発信しよう」

複数の新聞社の一面記事を比べ、なぜその日にその記事を一面にしたのか、なぜその写真を載せたのか、記者の意図を考えさせた。そして、目的や意図に応じて感じたことや考えたことなどから書くことを決めること、必要に応じて図表やグラフなどの資料を用いることなど、新聞を通して学んだ。

児童は、自分の考えを発信する際に、新聞記事の書き方を参考にしながら学習に取り組んでいた。

### ・社会科「戦国時代」

戦国時代の武将を一人選び、140字以内にまとめる「twitterレポート」を行なった。限られた文字数の中で、自分の伝えたいことや情報を盛り込む際に、新聞のリード文を参考にさせた。

リード文には、記事の概略を数行にまとめており、読み手を記事へと導くはたらきがある。この点を児童に説明し、文章を短く、コンパクトにま

とめることを意識して学習に取り組むことができた。

### ・社会科「模擬投票をしよう」

衆議院選挙期間に、各紙が報じている政党のマニフェストを読み合い、政党に投票する模擬選挙を行なった。

### ・社会科「日本と関わりの多い国」

ある日の新聞を最初から最後まで読み、出てきている外国の国名とどのような関わりが報じられているか確認し、様々な国が日本と関わっていること、世界の中の日本の立場を学習した。

### ・理科と社会科「単元のまとめ新聞づくり」

それぞれの単元の終わりに、単元のポイントを新聞にまとめる活動を行った。

### ・朝の会

日直は、毎朝届けられる新聞から、気になる記事を選び、選んだ理由や記事を読んだ感想を短くまとめ、発表する「新聞スピーチ」を通年行った。

### ・レクリエーション①

お題を決め、新聞記事からお題を構成する文字を見つけて紙に貼り付ける時間を競うというレクリエーションを行った。

新聞にとにかく触れさせたい、各学期の最初に取り組むと児童は興味を持った。

### ・レクリエーション②

新聞から、1年間の出来事を振り返り、その出来事やニュースをもとに、年末に行なわれる「今年の漢字」を予想した。

## 3 結果

N I E教育を実践し、2点の成果があった。



1点目は、文章をまとめる力がついたことだ。限られた文字数の中で、分かりやすく伝えるという新聞の特徴を参考にさせながら文章を書く活動を行なったことで、省略して書くところと詳しく書くところを児童が判断できるようになり、長文になりがちな作文も簡潔明瞭に書けるようになってきた。

2点目は、「読み手」を意識できるようになってきたことだ。新聞はリード文や読み仮名など、読み手に配慮して作られている。この点に注目させたことで、伝わりやすい表現や、興味を引き付けるレイアウトを考えるなどの工夫をする児童が増えてきた。

#### 4 考察

浦安市は4年生以上の学年に2社の新聞が届けられる体制がある。しかし、新聞を授業と結び付けるというのは、なかなかできていない。まずは、教師が新聞を教材にできそうだという意識を持ち、授業準備をすることが重要だと考える。今年度の実践は国語や社会に偏ってしまったが、算数では、「グラフや生活の中にある数字を見つける活動」や、理科では「最新の科学情報、気象情報」など、日常生活に関わっているものを新聞から見出すことができる。今後、年間指導計画を立てる際に確認していきたい。

#### 5 まとめ

「新聞にまとめる」ことを意識して取り組んできた今年度のNIE活動であったが、時事問題が書かれた新聞に触れることは、児童にとって、教科書を飛び越えた学習でもあり、自分事として考えるきっかけともなった。高学年だけに留まらず、図書室と連携し、コーナーを設けるなど、全学年の児童が気軽に新聞とふれ合える環境を整備

しつつ、教員も負担に感じずに新聞を活用できるような仕組みや、新聞と教科の結びつけができると、より有意義な教育活動が行えると思う。学校全体で実践を重ねていきたい。



5年生の壁新聞



6年生 新聞を活用した社会科

# 豊かな表現を生かし、情報のインプットから 思いや考えのアウトプットができる子の育成

流山市立八木南小学校 小松 菜津美

## 1 はじめに

八木南小学校では、4年間、国語科の研究に取り組んできた。読書・語彙・NIEという3本柱を立て、それぞれから、「豊かな表現力」の育成に努めてきた。

「新聞は難しい読みもの」という先入観から脱却できた昨年度。取り扱い方によっては、小学生の子どもたちにも身近なものとして手に取ってもらえる、ということを実感している。

NIEに取り組み始めてから、今年で2年目になる。今年度は、国語科だけでなく、他教科でのNIEにも取り組むこととし、各学年・学団での授業づくりに邁進した。

## 2 実践内容

今年度の仮説を、以下のように考えた。

新聞や図書、インターネットなどの情報に触れ、さまざまな意見や見方を知ることができれば、自分の意見を持つことができ、豊かな表現を生かして表現することができるだろう。

新聞や図書、インターネットなどの情報に触れ、さまざまな意見や見方を知ることができれば、自分の意見を持つことができ、豊かな表現を生かして表現することができるだろう。

各学年の目標は、昨年度に引き続き、以下の通りである。

**低学年** ○写真や絵から事実を読み取ったり、想像を広げたりすることができる。

**中学年** ○新聞を読むことで語彙を増やし、新しく学んだ言葉で表現することができる。

**高学年**

○新聞記事を読み深めたり、読み比べたりすることができる。

○情報を取捨選択し、考えたことを表現することができる。

低学年は、主に写真から情報を読み取る活動を中心に、NIEに触れさせられるようにした。中学年以降は、新聞の中で使われている言葉に注目し、新しい語彙として獲得できることを目指してきた。高学年は、新聞記事を読み深め、さらに、情報を取捨選択できるようになることを目標として学習を進めてきた。今年度、NIE活動の一環として行った実践は、以下の通りである。

### 1年生の実践

「きいたことを正しくつたえよう」

～われら みなみんしんぶんしゃ～（国語科）

インタビュー、取材メモ、見出しづくりに挑戦した。「ベスト見出し」を作るために、①みじかいことば ②よみたくなる ③まとめている という三箇条を設定し、グループで見出しを考えるという授業を行った。

初めて挑戦することが多くあり、どうしても教師の指示が多くなってしまった。教師の指示の仕方について考えさせられる授業となった。

### 2年生の実践

「町のすてきみつきたい」（生活科）

町の素敵な人について紹介するために、グループで集めた情報を整理した。中学年や高学年での新聞の学習につながる一歩となるよう、授業を展開した。

低学年でのN I Eの在り方を考える機会となった。新聞に慣れ親しむことや、今後の学習につながる土台を培うことが低学年では大切であると感じた。

#### 3年生の実践

「見つけた 流山市の一番星」(社会科)

市内めぐりや調べ学習で見つけた流山市の良いところを記事にし、新聞をつくる活動に取り組んだ。

子どもたちにとって、新聞について初めてじっくりと学ぶ機会となった。新聞とはどういうものかということから丁寧に学んだ新聞作りのみに着目すると、国語科のねらいに近づくことになってしまい、社会科の目標やねらいからずれないことが大切であることを感じる結果となった。新聞を手立て、手段として使い、それぞれの教科のねらいに近づくように、指導計画を立てなければいけないと感じた。

#### 4年生の実践

「新聞のミカタ」(国語科・算数科・総合)

同じ内容の各会社の記事を読み、レイアウトの違いについて学び(国語科)、環境新聞をつくった(総合的な学習の時間)。その後、記事の面積を求めることを算数科で行った。

面積を求める思考力の育成はもちろん、新聞の見方や見比べ方を増やすことができた。

各会社の記事の占める割合を比べることから、新聞社の意図を読み取ることもできると、より深くN I Eに関われたと感じた。

#### 5年生の実践

「5 - 1 ng my way !」(道徳科)

これからの自分の生き方について考える授業を

展開した。新聞記事の中から、「こういう生き方、いいな」「あこがれる」という人の記事を探し、スクラップノートにまとめる。コロナ禍でグループ活動が難しいため、友達を選んだ記事やノートについて、タブレット上で意見交換をした。

45分の授業時間に対して、活動を盛り込み過ぎてしまった。2～3時間の取り扱いにするか、活動をしぼるかを考えるべきだった。

#### 6年生の実践

「開局 BEST 放送！

～ニュースキャスターになって

記事を伝えよう～」(国語科)

ニュースキャスターになって気になる話題を新聞から見つけ、学校で放送する取り組み。

気になる記事を相手にわかりやすく伝えることをねらいとした。

子どもたちは、どのように原稿を作るとよいか、教師のモデルと記事を見比べながら考えることができた。

給食時の放送では、緊張しながらもハキハキ話そうとする児童が多かった。

#### その他の取り組み

- 「今日の新聞」コーナーの設置
- 朝日新聞オンライン見学(5、6年)
- スクラップ壁新聞づくり(全学年)

### 3 実践結果

#### 1年

インタビューしたことを自分の言葉で新聞にまとめ、見出しを一人ひとり考えることができた。

#### 2年

どのようにしたら児童が新聞に親しみ、身近な存在になるのかを考え、生活科でも導入部分で効果的に活用できた。



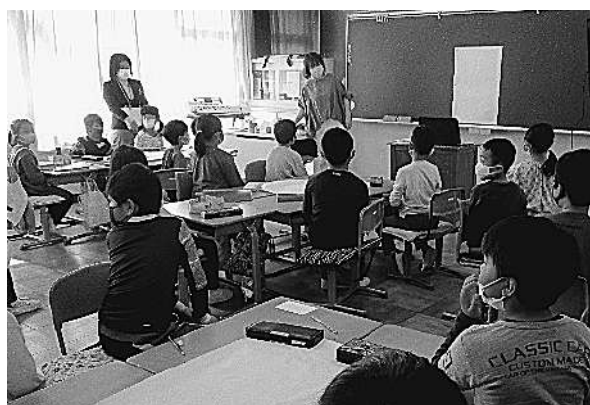
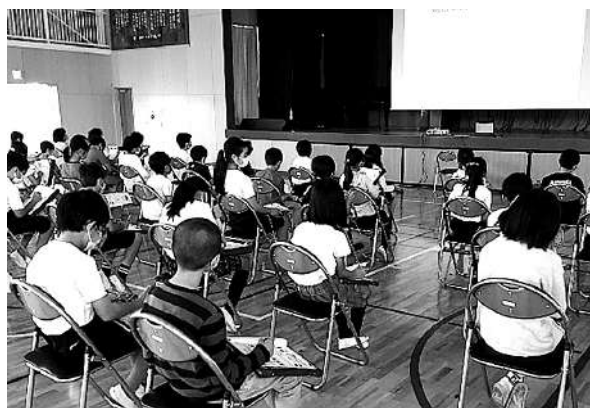
3年 見出しについて理解を深め、事後活動で自分の新聞に良い見出しをつけることができた。

3年 見出しについて理解を深め、事後活動で自分の新聞に良い見出しをつけることができた。

4年 新聞を使った学習は、国語や総合的な学習の時間、算数などでも使用してきたため、慣れている状態で取り組むことができた。

5年 新聞に目を通していたことで出会えた記事を使って、授業を組み立てることができた。

6年 スクラップノート作りを継続してきたことで、記事選びや要約、自分の考えを書かせることができた。



#### 4 まとめと今後の展望

2年間、新聞を用いた授業づくりを考えてきた。はじめは「難しそう」「小学生にはちょっと…」とも思われたが、学年・学団・学校全体で知恵を出し合うことで、新聞がかなり身近なものに感じられるようになった。NIEの研究は今年度で一区切りとなる。一見、難しそう、できなそう、と思われることでも、まずは挑戦してみることで開く扉があるということを、今回の研究で学んだ。次年度も、研究の教科・内容に関わらず、子どもたちの未来につながる実践を続けていきたい。

# 「児童一人一人に応じた教育の追究」 ～主体的・対話的で深い学びの視点から～

東金市立福岡小学校 中島 翔

## 1 はじめに

本校では、「児童一人一人に応じた教育の追究」を重点目標とし、子どもたちが毎時間いきいきと活動できるような学びの場を目指してきた。その一つとしてN I Eの取り組みがある。

学校に届く新聞に限らず、自宅に届く新聞を児童自ら持ってくるなどの取り組みを二年間継続した結果、新聞を通して子どもたちが自発的に学習に取り組む姿が根付いてきた。



## 2 実践状況

前年に引き続き、どの学年も自分の興味がある分野に目を向けながら調べ学習を進めた。昨年度はスポーツ関連のニュースやコロナ関係のニュースを調べる児童が多く、なかなか現代社会のニュースに触れるという児童は少なかった。そこで今年度は、児童が現在の世界情勢に目を向けながら新聞を読み進めることができるよう、総合的な学習の時間や理科・社会科の時間を使い、最近のニュースや過去のニュースを少しずつ取り上げながら授業を進めてきた。

特に今年度は選挙戦や世界会議など、国内外でも話題性豊かな内容が多かったため、学習に入る前

から児童の興味関心も高かったように感じる。

そのようなことから、今年度も課題を一つに絞ることなく、幅広い内容を取り上げるのと同時に、自分達が生活していく世の中が未来に向かって、どのように変わっていくのか、想像を膨らませながら考えをまとめていくことにした。



—以下児童がまとめた内容—

【選挙（総裁選・解散総選挙・地方選挙）・原油高騰・脱炭素・COP26・土砂災害（自然災害も含む）・金融など】

・例1：自然災害問題

7月に静岡県熱海市で起きた盛り土問題を取り上げた児童は、過去に発行された新聞記事と最新



記事を読み比べ、現在はどうなっているのか、今後どうなっていくのかを考えていた。

・例2：選挙①

新聞の選挙公約や党内の動きなどを見て、自分が選挙に行ったとしたら、もし政権をまかせるとしたらなど、自分なりに仮説を立て、将来に向け、日本のあらゆる問題を解決しようと想像を膨らませながらノートに考えを書き込んでいた。

・例3：選挙②

今回の解散総選挙をきっかけに、記事を切り取ったノートを友達と見せ合ったり、意見交換したりすることで、各政党の考えに共感があったり、選挙のあり方についても一度考え直したり、大人になったら投票しに行こうと前向きな考えを持てるようになってきた。

同時に社会科のノートや教科書、資料集を広げながら政治の内容を振り返る姿も見られた。



・例4：原油高騰・脱炭素・COP26

(環境問題)

当時のニュースとしてタイムリーな話題であったためか、素材選びの段階で、新聞を広げた状態で意見交換をする場面も見受けられた。また、今後、総理大臣が世界の国々とのように関わっていくのかコメント欄から展開を予想し、自分の考えをまとめていた。

将来、石油や天然ガス等の化石エネルギーが無くなってしまおうという考えを持った児童は、どうしたら再生可能エネルギーをたくさん作ることができるか、コラムを読みながら考えていた。



NIEコーナーを活動スペースとしても使えるようにしたことで、児童が活発に新聞を手にとり、休み時間にも話をする姿も見られた。

何名かの児童は、新聞に掲載されてある資料(円グラフ)を活用することで資料作成が楽しいと感じるようになっていった。更に、完成したノートを全体に見せることで、文章や見出しのみにマーカーをつけたり、写真のみを切り抜いたりした児童もグラフや統計表などに目を向けるようになっていった。

難しい表現や文章、わからない言葉は辞書を使って調べている児童もいた。



### 3 結果

新聞を広げ、記事を読むだけでなく、そこから自然に児童同士の会話が生まれるたことは、自ら学習の成果を自覚することになっていったと感じている。

学習の個性化の視点からは、全体で同じ課題に取り組むのではなく、個人個人が様々な課題や話題に取り組むことで知識も深まっていった。さらに友達と対話し、そこから知識を得ることで、児童の興味関心がますます高まったようにも思える。

今回の取り組みを通して知識はもちろん、学びに向かう態度や表現力が向上したように感じる。また自分なりに仮説を立て、将来に向け、問題を解決しようとする姿は想像以上であった。

### 4 考察

2年前にNIEコーナーを作った当初は、誰も立ち寄ることなく、ただ新聞が置かれている状況であった。しかし、朝の会や授業中に教師が新聞記事を示しながら話題を提供することで、新聞に対し少しずつ興味を示し始め、宿題にも新聞記事を引用した作文を書いてくる児童が増えてきた。ちょっとしたきっかけを与えることで、児童自らが進んで学ぶ姿を見ることができた。

今後、この活動を通してつけた力を中学校や高等学校で活用し、大人へと成長していくのが楽しみである。同時に、デジタル社会になっていっても、新聞をじっくりと読むことの良さを次の世代に語り継いでもらいたいと願っている。



# 新聞に親しもう！ ～「新聞を活用した授業づくり」をめざして～

木更津市立東清小学校 永嶌 裕美

## 1 はじめに

東清小学校は、令和2年度からNIE実践校としての指定を受け、本年度が2年目の取り組みとなる。昨年度は、まず「新聞に親しもう！」をテーマに、授業に新聞を活用するにはどんな方法があるかや、児童が新聞を身近に感じ新聞に触れることのできる場面にはどんなものがあるか、まず職員が研修を深め、できることから実践することに挑戦する年と考え取り組んできた。

今年度は、昨年度の活動を受け、新聞を活用した授業の機会を増やすことを心がけてきた。

## 2 実践内容

### ①職員研修

昨年度に続き、新聞の活用の仕方にどんなものがあるか、NIEに関する資料を集め、職員に周知することにより、実践へのハードルを下げ、担任がとにかく取り組んでみようという意識が持てるように考えた。

NIE担当が気づいた情報や資料を、職員にたよりで確実に伝えることを心がけた。

### ②授業での実践例紹介

- 新聞記事の視写
- 新聞記事をスピーチで活用する。
- 新聞記事から「短歌・俳句作り」
- 新聞記事から「漢字・言葉探し」「短文作り」
- 学習内容の「新聞作り」
- 新聞記事を使って、「切り抜き新聞」の作成
- 国語「新聞を作ろう」
- 図工「やぶいたかたちから」
- キャリア教育「将来を考えよう」

など、授業で活用できそうな実践を紹介し、気軽に取り組める機会を増やすようにした。各学年、できる範囲で実施してみた。

### ③新聞を身近なものに

新聞をすぐ手に取れるように、新聞は高学年の教室に置くこととした。

新聞を購読していない家庭が増えている今、興味のある世の中のできごとや話題になっていることなどを紙面で読むという経験は、児童にとって新鮮であり、大切な経験であると考えた。

### ④実践例

#### 〈第1学年 実践例〉

##### 「やぶいたかたちからうまれたよ」

紙をいろいろな方法で破くことを試し、破いた紙の形に着目しながら、いろいろな置き方を試して表したいことを考える活動を行った。

#### 〈第4学年 実践例〉

##### 「新聞」を作ろう

新聞には、いろいろな情報があることを知り、自分の伝えたい内容を選んで、写真や図表を効果的に使いながら新聞を作る活動を行った。

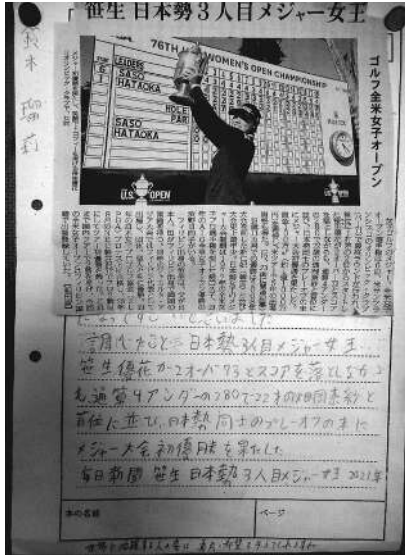




## 〈第5学年 実践例〉

### 「情報ノート」を作ろう

新聞を読んで興味・疑問を持ったことについて、図書やインターネットを使ってさらに調べ、「情報ノート」にまとめる活動を行った。



### 「新聞を読もう」

実際に新聞を見ながら、新聞の内容や構成について知り、読み比べながら、新聞社が伝えたかったことを考えた。

## 〈第6学年 実践例〉

### 新聞記事でスピーチしよう

気になった新聞記事を朝の会のスピーチで紹介するという活動である。見出しを手がかりに記事を選び、友だちに説明するために要約するという活動を継続し、少しずつ要約することにも慣れてきた。普段使わない漢字の読みや地名・人名にも触れることができた。

### 新聞切り抜き記事で作品作りをしよう

講師による出前授業を体験し、自分たちが選んだテーマに沿った新聞記事を集め、紙面を構成し、見出しやコメントをつけて新聞を作る「新聞切り抜き作品」作りを行った。必要な記事を選び、分類し、自分たちで考えた見出しをつけることで、新聞記事をじっくり読み、要旨をまとめる

活動に取り組むことができた。紙面の構成では、記事の配置を考え、見出しやコメントが目立つように、大きさや色を考えることができ、今後の新聞作りにも活かせるものとなった。



### 「自分の考えを発信しよう」

自分の書きたいテーマに沿って取材をし、意見と事実を区別して、明確な根拠をもって説得力のある意見文を書くという言語活動を行った。これからの情報化社会を生きていくうえで必要なメディア・リテラシーを養っていくためにも重要な学習である。

書き上げた意見文は、新聞の読者投稿面に投稿するという学習のゴールを明確にすることで、意欲を持たせることを図った。

友だちとの交流では、自分になかった見方や構成の仕方、優れた表現に触れ、自分の考えに広がりを持たせることをねらった。

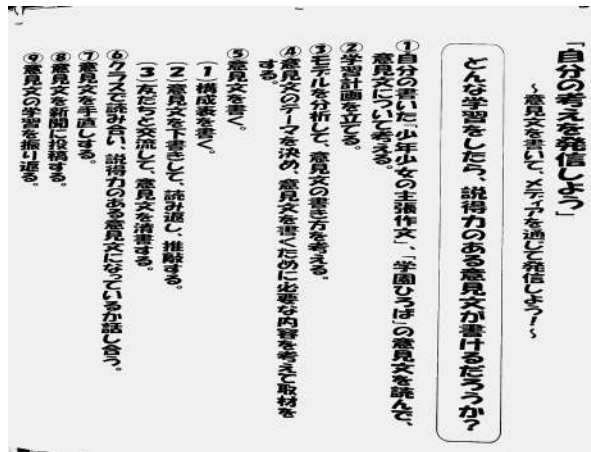
振り返りでは、情意的な面での満足感と学習で身につけたことを意識させることに留意して単元を構成した。

#### ○まず書いてみる

生活作文を書くと、書き出しに迷ってなかなか書き出せない児童がいた。テーマを与え、時間を区切り、自分はテーマに対してどう考えるのか、立場をはっきりさせて書く練習を継続し、書くことへの抵抗感を減らすことをねらった。

#### ○学習計画を立てる

どんな学習をして意見文を書いているのか、児童とともに計画を立てた。計画を掲示し、今ほどの学習をしているのか示すようにしたので、見通しを持って進めることができた。意見文を書いて新聞に投稿するというゴールを設定したため目的意識を持って取り組むことができた。



○モデルの分析で、抵抗感を減らす

意見文のモデルを分析し、意見文がどんな構成になっているか理解させることにより、この構成で書いていけば自分にも読む人に伝わる意見文が書けるという安心感を持たせ、書くことへの抵抗感を減らすことを心がけた。

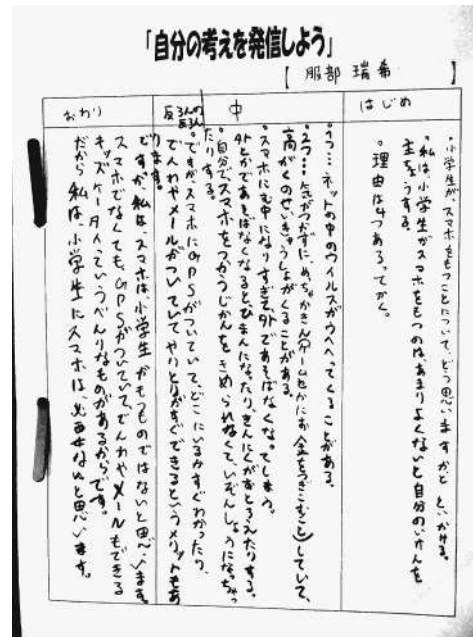


○新聞へ投稿で、意欲化

書き上げた意見文を新聞に投稿するという初めてのゴールを設定することにより、「説得力のある文章を書きたい。」「新聞で大勢の人に読んでもらいたい。」という意欲化が図れるものと考えた。

自分の文章を新聞に投稿するという経験は、国

語の学習にとどまらず、よりよいものをめざして意欲的に活動することへつながるものと期待した。



### ○交流による認め合い

お互いの意見文を読み合うことにより、自分になかった見方や構成の仕方、優れた表現に触れ、自分の考えに広がりを持たせていくことをねらった。

友だちや他学年・保護者からの評価は、担任からのものとは違う一面があり、子どもたちの励みと刺激となることを期待した。

### ○振り返り

振り返りでは、意見文のテーマを決め書き上げたときの思い、友だちと交流したときの思い、新聞に投稿したときの思い、意見文を書くときに気をつけたことをまとめて、情意的な面での満足感と学習で身につけた内容を意識することができた。

多くの意見文に触れ、いろいろな表現の仕方や対象とする読み手によっても違いがあることにも目を向けることができた。

### ○授業の成果と課題

○学習の流れの掲示物が有効だった。

○下調べを生かし、構成表がしっかり書けていたので、意見文をスムーズに書き進められていた。

○新聞に投稿するというゴール設定がよかった。本物の新聞が持つ強さ・メリットがあった。

○400字という目標設定もよい。書く力がついてきていた。

○問題提起しているモデルがよかった。

○これまでの積み重ねが感じられる取り組みだった。

▲どんなテーマを設定するか難しい。

▲自分の考えと引用をしっかり分けて書く練習が必要である。

▲多くの情報が手に入るので、取捨選択できるようにさせたい。

## 3 成果と課題

○N I Eに関する多くの情報を共有し、さまざまな取り組み方を知ることができた。

○高学年は、日常的に新聞の紙面を目にすることができた。



# 子どもが新聞に親しむための工夫 ～新日々の実践に新聞を活用する取り組みを通して～

栄町立安食小学校 伊藤 仁

## 1 はじめに

本校は令和2年度からの2年間、N I E推進実践校の指定を受け、2年目の取り組みとなる。

新聞を普段あまり読んでいない児童が多かったことから、児童がもっと新聞を身近な物として感じることを目指すことにした。1年目は前年度に比べ新聞を読む機会が多くなり、新聞を身近に感じるようになった。そこで今年度は、I C Tの活用と併せて、自分の考えや意見を発信する力を付けるための工夫を行った。

## 2 実践内容(4年生)

### (1) スピーチへの活用

昨年度から継続して、全校で毎朝行っている「朝のスピーチ」のテーマとして新聞の活用を取り入れた。日直の児童が職員室に届いている新聞から興味のある記事を選び、学年に応じて、選んだ新聞の内容を簡単に要約したり、自分の感想や考えを付け加えたりしてスピーチ原稿を考え、クラスの児童の前で発表した。職員室には数種類の新聞を用意し、自分の興味のあるものを選べるようにしたり、大人の新聞が難しい場合には、子ども新聞なども取り入れたりした。

### (2) I C T機器の活用

G I G Aスクール構想で一人1台導入されたタブレットを活用し、新聞の内容を動画やパワーポイントにまとめる活動を行った。

使用したソフトはWindowsのビデオエディターとPowerPointである。

#### ①ビデオエディター

動画を作成するにあたって、はじめに行った

のは新聞記事の画像のトリミングである。視覚的に情報を伝えるために、記事の写真をそのまま映すのではなく、特に注目してほしいところを強調するなどの工夫が見られた。



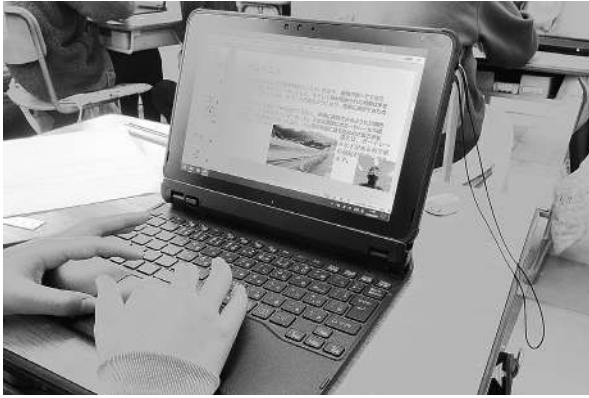
次に、動画の構成である。新聞記事の文章の流れを分析し、特に伝えたい内容をはじめにもってきたり、最後に繰り返して強調したりと、児童それぞれが工夫を凝らした。

最後に、まとめの撮影と編集である。新聞の編集後記を参考に、文章を考え、自分自身を撮影することで動画のまとめとした。

2学期からは「朝のスピーチ」の時間に、完成した動画を1日に1人ずつ大型のテレビに映して全員で見合った。人前で話すことが苦手な児童も、何度も撮り直すことができるため、満足のいく発表にすることができたと話していた。また、友達の完成した動画を参考にできるため、日を追うごとに完成度の高いものになっていった。

#### ②PowerPoint

PowerPointでもビデオエディターと同様に新聞記事の画像のトリミングから行った。ビデオエディターと違うのは、新聞記事の紙面のようなレイアウトにできるということである。



そこで、新聞記事をいくつかの領域に分け、読んでほしい順番でページの作成を行った。音声を使って伝えたい場合は動画を PowerPoint に埋め込み、再生するようにした。

### 3 実践の結果

#### (1) スピーチへの活用

昨年度に引き続き、スピーチを毎日欠かさず行ったことから何度も新聞を目にする機会を作ることができた。また、どの学年においても新聞を使ったスピーチが習慣化し、新聞の文字を読んだり要約したりすることがスムーズにできるようになってきた。さらに、スピーチをした際に質問や感想を伝え合う時間を作ったことで、聞いている児童も新聞記事への関心が高まった。

また、今年度はオリンピック・パラリンピックが開催されたこともあり、有名なスポーツだけでなく、マイナーなスポーツやパラスポーツに興味をもつきっかけにもなった。オリンピック・パラリンピックの時期には、ほとんどのスピーチがその内容になるほどであった。

#### (2) ICT機器の活用

動画や PowerPoint に新聞記事をまとめる活動を行ったことで、要約する力がより身に付いた。口頭で話すスピーチと違い、文字数に自然と制限が生まれるため、大切な言葉を新聞記事の中から

探し、端的に伝えることができた。

リアルタイムで行うスピーチと違い、聞き逃してしまってもアーカイブから何度も視聴できるため、実際の新聞記事の内容と照らし合わせながら確認する児童もいた。



### 4 考察

新聞に親しむため、新聞記事を動画や PowerPoint にまとめる活動を設定したことはとても効果的であったと感じている。児童にとっては新聞よりも YouTube のような動画視聴サイトの方が身近なこともあり、新聞に興味をもつ窓口になったのではないだろうか。また、より多くの情報を手に入れるために、インターネット上の記事を参考にしたり、メール機能を使って情報を問い合わせたりと、情報を手に入れる手段を知る機会にもなった。

動画は全校の共有フォルダに保存している。そのため、学年を跨いで活用することができ、年度



を追うごとにステップアップしていけると考える。

## 5 まとめ

昨年度に引き続き、児童が新聞を身近な物として興味をもつことを目指してN I Eを進めてきた。新聞を活用したスピーチやプレゼンテーションを行うことで、児童にとって「必然的に新聞を手に取り、新聞を活用する機会」を増やすことができたように思う。

今後は新聞記事をまとめるだけでなく、書き手や読み手の立場から新聞について、より深く考えさせていきたい。そして、情報教育と関連させながら、N I Eを引き続き行っていきたい。

# N I Eを通して生きる力をはぐくむ

## ～社会と自分をつなげる新聞～

市川市立宮久保小学校 石川 剛士

### 1 はじめに

本校では各クラスや委員会でN I E活動を行っている。国語、総合など様々な教科で新聞づくりを実践し、朝の会でスクラップを報告したり、記事をもとに自分の考えを書いたり、新聞活用も実践してきた。令和3年度のN I Eの実践を振り返り、来年度以降も活用したいと考える。

### 2 実践状況

#### (1) 新聞づくりの活動

##### ①体育科 運動会新聞 (A4版)

運動会での学びをA4版の新聞で振り替えた。各種目ごとにまとめ、自分の考えたことなども入れ、工夫した作品に仕上がった。

##### ②総合的な学習の時間 回し読み新聞

コロナウィルスについて

コロナウィルスについての記事を読んで、それぞれが思ったことを小さな紙に書き、まとめた学習新聞。世の中で起こっていることに対して意見を持つ力を養った。

##### ③総合的な学習の時間 壁新聞

租税教室についてまとめよう

租税教室で学んだことを小さな紙に書き、壁新聞に張り合わせてまとめた。短時間で振り返り、掲示、共有ができる効率のいい活動だった。

##### ④道徳 回し読み新聞

ペットの命について考えよう

道徳の教材で命について扱ったときに、新聞記事も併せて利用し、それについての考えを小さな紙に書いて、掲示、共有を行った。

全員の考えが手早く共有できた。

##### ⑤総合的な学習の時間 壁新聞

宮久保小をLEADしよう

学級全員で一つの壁新聞を作った活動。記事を全部で9つ、2面で構成し、30人が3～4人ごとチームを作り、各記事を担当した。本文、見出し、カットをそれぞれ担当し、力を合わせて完成させた。内容は、6年生になりクラスとして頑張りたいことを話し合い、それについてまとめた。

##### ⑥社会 歴史上の人物新聞 年表版

はがき新聞に歴史上の人物についてまとめ、それを年表の形式で貼っていった。一人につき2枚で構成し、全員が一人以上の歴史上の人物について調べた。学習時にその人物が出てきたときに活用することができた。

##### ⑦国語 きつねの窓

B4サイズワークシート新聞

新聞型のワークシートにし、一時間に一記事ずつ作成していき、学習が終わると完成しているようにした。学習が一覧で振り返ることができ、完成度も高かったので、児童も満足した様子だった。

##### ⑧総合的な学習の時間 修学旅行新聞(B4版)

2年間の学習の集大成として、意欲的に取り組んだ。修学旅行での学びをまとめた作品。

#### (2) 新聞活用の活動

##### ①日直による、新聞スクラップ活動

毎朝、日直が新聞記事をスクラップし、要約と感想を発表する活動を行った。同じ班の児童が、それに対するコメントを述べた。だ

んだんと、記事に対する、自分の考えが話せるようになった。

## ②新聞記事をもとに自分の意見をアウトプットする活動

教師が気になった記事をスクラップし、ワークシート化する。それに対する考えを記述する活動。1モジュール15分間で行い、できた児童のものから時間内いっぱいまで、書いた文章を読み上げていった。友達の意見を興味深そうに聞く児童が印象的だった。

## ③委員会による新聞スクラップ活動

毎月の委員会で、テーマを一つ決め、それについての記事をスクラップしてラシャ紙に貼り付ける。そこにコメントを書き込んで掲示する。また、号外新聞を作成。

## ④回し読み新聞

全員で一つの記事(同じテーマで複数記事の場合もあり)を読み、小さい紙にコメントを書き込んで、全員分を一覧で貼り付けてお互いに見合う活動。

## 3 成果と課題

- 子どもたちの書く力が向上した。文章力と構成、要約、レイアウト、デザインなどをする力も付き、学習したことをノートにまとめるときなどにも、苦勞することなくできるように成長した。
- 全国小中学生新聞コンクール(毎日新聞社)で学習新聞の部の最優秀賞を受賞できた。(6-1)
- 市内学校新聞展で4クラスが最優秀賞・優秀賞に輝いた(6-1, 4-2, 1-1, 3-2)
- ニュースへの理解力と、出来事に対して自分の意見を持つ力が向上した。
- 日常的にニュースを共有することで、社会の出来事に対して、自分の意見を持つことが容易になった。

●年間の学習計画の中に計画的に配置し、ほかの活動に支障が出ないようにする必要がある。

●学年内で足並みをそろえて、活動を共有していく。



## 4 まとめ

数多くのNIE実践を行うことができた。また、新聞づくりにおいては、多くのクラスが力をつけ、コンクール等で評価してもらうことができた。しかし、まだまだ、届いた新聞を無駄にしてしまうことも多い。年間の学習計画の中で、無理なく、だれにでもやりやすい実線を考案していく必要性を感じる。次年度はそういった活動を考え、提案していきたい。

# 情報活用能力を育むために

習志野市立津田沼小学校 金井 達也・渡辺 諒平

## 1 はじめに

本校はN I E実践指定校1年目である。新聞に触れる機会が少ない現在において児童たちにどのように新聞に触れさせ、どのような力を高めていけるのかを考え実践していくことに決めた。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響もあり、N I Eに取り組める時間をうまく活用することが難しかった。しかし、教科と関連付けながら新聞に親しませ、発達段階に応じた能力を育むことを重点に置き、実践することとした。

## 2 実践報告

### 【3年生の活動】

これまで新聞を見たことがない児童もいるため、まず「新聞に親しむ」をテーマに取り組んだ。そこで、「よみうりこども新聞」を活用し、「この新聞の中から1番大きな文字を見つけてみよう」と投げかけ、大きな文字見つけに取り組んだ。そして、見つかったものを比べ、「なぜ大きい文字があるのか」の話し合いをした。さらに、「この新聞の中から1番大きな数字を見つけてみよう」と同様に発問し、話し合いを進め、新聞の構成について考えさせた。

最後に、いろいろな記事の中から1番気に入った記事を切り取り、それについて大事なところに線引かせた。3年生は国語の授業の中で、「大事な文を要約する」学習を積み重ねて行っているため、すぐに要約することができた。

新聞に線を引いたものを、カードに書き表していく。ひとつ気に入った記事を取り上げ、そこから要約し、さらにその記事について自分の考えや

思いを書く活動を行い、「新聞に親しむ」というテーマを軸に学習を進めていった。



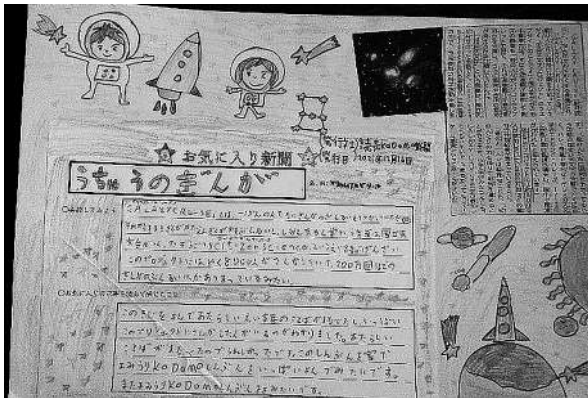
### <成果>

新聞に親しむという点では、まず、こども新聞を活用したことは良かった。さらに初めて新聞に触れる児童もいて、意欲的に学習を行っていた。さらに、長い文章をまとめる「要約」については、学習した経験を生かし、一人一人が自分の力で要約することができた。児童の感想には、「またやってみよう」と言った児童もいたこともあり、新聞への関心の高まりもうかがえる。

### <課題>

記事をまとめるだけでなく、実際に気に入った記事を取り上げ、それについて自ら新聞を書くという活動までいけると良かった。そして、何よりも児童が新聞をより身近なものに感じることができるようになっていく必要がある。





【5年生の活動】

以前、国語の学習で、「情報ノートを作ろう」

という単元を行った。その一環として、自分たちが気になった新聞記事を切り貼りし、記事の要約、そして記事を読んで考えたことをまとめる「情報ノート」を書いている。



そこで5年生では、気になった新聞記事について紹介するという内容で、日直のスピーチを行った。これを行う目的としては、2つある。1つ目は「書く力や話す力を付けること」、2つ目は「新聞に慣れ親しむこと」である。

情報ノートを書くテーマは自由である。社会情勢、スポーツ、農業、漁業などの産業、新型コロナウイルスのことなど、様々なジャンルから自分の気になったテーマを選んでよいこととした。



<成果>

大きな成果として挙げられるのが、親しみのなかった新聞にたくさん触れることができたということである。子供たちに今回の活動を行った感想を聞いたところ、「新聞を読む機会ができてよかった。」「ニュースよりも詳しい内容を知ることがで



きたのでよかった」「今の社会で起こっていることがわかってよかった。」と答えていた。

また、新聞を読むことのよさについて答えている児童もいた。それは「ネットニュースやテレビのニュースでも情報を得ることができるが、それは、自分の興味のある情報しかわからない。しかし、新聞はいろいろな情報が載っているので、関心のない情報も触れられるのでよかった」と答えていた。新聞に慣れ親しむことができたことと、新聞には新聞のよさがあることを知れたのが、大きな成果であるとする。

情報ノートを活用したスピーチでは、書く力や話す力を付けることができた。スピーチのルールとして、原稿を見ないこと、終わった後に、聞いている人と目が合った人数を聞くことを約束としていた。はじめは、自信もなく、下を向いて話したり、声が小さかったりしていた。しかし、繰り返し行ったことで、前を向いて、周りを見渡しながらかつ話することができていたり、大きな声で堂々と話したりする児童が増えた。「みんなの前での発表に慣れて、緊張しなくなった。」「人の目を見て話すことができるようになった。」と感想をもつ児童がほとんどだった。

新聞にたくさん触れられたこと、話す力が付けられたことが大きな成果であるとする。



#### <課題>

新聞を読むきっかけづくりにはよかったと考え

る。しかし、それを日常に生かす手立てが足りていなかった。「今の社会の様子を知りたいから新聞を読もう」「調べたいことが新聞に載っているかもしれないから読もう」など、自主的に読もうと思うことが重要であると感じた。

今の時代、一人一台タブレット端末を持っている。子供たちにとって、新聞よりもタブレット端末で調べたほうが、早く情報を得られると考えている。より新聞に親しませるためにも、タブレット端末と新聞、双方のよさを考えさせることが、今の子供たちにはよいと考える。

日直のスピーチだけでなく、普段の授業でも新聞を取り入れて活動できるようにすることが、今後の課題である。

# 新聞に親しむための工夫

野田市立北部小学校 中村 瞳・浅川 八重子

## 1 はじめに

本校は昨年度まで、土曜授業の時間を使って高学年でNIEを実践してきた。今年度からは、全学年でNIEに取り組み、これまでよりも子どもが新聞に親しみ、身近に感じるにはどうすればいいのかを考えてきた。今年度の変更点として以下の2点が挙げられる。

- (1) 今年度、市の補助を受け、新聞を全学年が6回ほど購入することができ、学級での指導がしやすくなった。
- (2) 高学年では毎日様々な新聞が各クラス1部届くようになり、新聞がとても身近なものになった。

## 2 実践状況

### <低学年の活動>

「新聞に親しもう」をテーマに取り組んだ。新聞に触れることが初めての子どもがほとんどだったため、新聞のつくり、読み方、めくり方から指導した。

はじめに、読売 KODOMO 新聞を使って、カタカナの言葉を探す活動を行った。たくさんの文字を見つける中で、新聞の文字には大きさやレイアウトが異なる物があることを知った。

次に、気になる写真を切り抜いて台紙に貼った。子どもは様々な記事や写真があることを気づくことができた。この写真の記事が何を伝えたいのかを想像して、吹き出しに書かせた。

最後には、新聞の記事を読んで、自分の意見や感想を書くことができた。



これらの実践を通して、子どもが新聞に親しみ、記事を読んだり、伝えたいことは何かを想像したりする力が養われてきた。

### <中学年の活動>

「新聞を読もう」をテーマに取り組んできた。気になる文字を集め、意味を調べたり、その文字を使って短文作りをしたりした。また、見出しだけを切り抜き、短い言葉で伝える為に、どのような工夫があるのかを考えたりした。



次に、気になる記事を切り抜き、何が書かれているのかを要約し、その記事についての感想を書く活動を行った。その記事を読んで、疑問に思ったことをインターネットを使って調べたり、友達や身近な人に聞いたりして記事の内容をさらに深く読んでいた。記事から、さらに知識を広めることができた子どももいた。

さらに、同じ新聞でも違う記事を取り上げたり、1つの記事でも人によって見方や要約の違いがあったりすることに気付き、子ども同士で新たな視点を見いだすことができた。

新聞の記事を利用することで、国語の学習である「要約」を実践へと結びつけることができた。

#### <高学年の活動>

「新聞から考えよう」をテーマに取り組んできた。毎日の活動としては、日直が毎日の新聞から気になった記事を切り抜き、見出しを付けて掲示をしたり、帰りの会で紹介したりしていた。

取り扱った新聞の中には、一般家庭ではなかなか購入しない経済新聞や工業新聞などもあり、新しい知識を知り、友達同士広めるよい機会となった。子ども達の知識欲を向上させた。また、今の日本や世界の様子をリアルタイムに知ることができ、社会科や理科などの横断的な学習にも活用することができた。

さらに、NIEでは新聞を読み、気になる記事を要約したり、その記事について考えを書いたりする活動を行った。6年生は、2年目になり新聞を読む速さや記事を要約する速さなどはとても速くなった。今では、教師が指定した記事について考え、意見を交換するまでになってきている。

1年間を通して、新聞を読むことに対して抵抗感がなくなり、新聞を配られるとすぐに朝学習の時間や休み時間に自然に読むことが当たり前

なってきた。子ども達の新聞を読む姿が日常の1コマになってきている。



### 3 成果と課題

一人ひとりが新聞を読むという活動を通して、新聞に興味を持ち、新聞を身近なものに感じてきているようである。

子ども達の興味によって記事を選んでから読み進めることができるため、新聞を読む活動への抵抗感が軽減してきている。

このことから、新聞に親しむことができたと言える。また、新聞が一人1部あることで、学年に応じた目標に向かっての取り組みがとてもしやすかった。同じ新聞を取り扱うことの指導のしやすさ、子ども達の情報共有のしやすさなどがこの実践の利点と考えられる。

本校では土曜授業の日にNIEを行っているので、教員もあまり負担を感じずに取り組むことができたのではないかとと思われる。

来年度も是非NIEに取り組んでいきたいと考えている。そのためには、子ども達がさらに新聞に親しむ環境を作ることが課題と言える。

# ふるさと学習を通じた主権者教育の推進

～新聞を活用したまちづくりプランの作成～

酒々井町立酒々井小学校 藤川 敬介

酒々井町教育委員会 一場 郁夫

## 1 はじめに

2016年に改正公職選挙法が施行され、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことを契機に、主権者意識を培う視点から、多くの自治体が、「子ども議会」を行うようになった。酒々井町でも2016年度から、ふるさと学習(酒々井学)の一環として、小学生も参加する「こども模擬議会」を開催している。その中でのまちづくりプランの作成に新聞活用を導入している。

## 2 ふるさと学習「酒々井学」

平成29(2017)年度から町教育施策の事業で、町の地域的な特色としての歴史・文化・自然や自分たちの生活環境等を素材として、児童生徒が主体的に郷土について学習するふるさと学習(酒々井学)を導入し、自分たちが暮らしている郷土を愛する心の涵養を図っている。

酒々井学とは、町の地域素材を使い、教科等の学習内容と関連づけて実践する地域学習・活動である。町の歴史・文化・自然等について知ること、郷土に対して愛着と誇りを持ち、町民としてのふるさと意識を育むことをねらいとしている。

## 3 主権者教育

主権者とは、自分たちは社会に生かされているという受動的な意識から、自分たちが社会をつくっているという主体的な意識をもって社会に参画する者である。そして、主権者教育とは、国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者を育成していくことである。

この実践の下地にあるものが、「ふるさと意識」である。まずは、自分が暮らす町に対して「自分の町」であるという所有格(My まち・Our まち)の意識を育むことが基本となる。この児童の所有格意識を基本にして学習することで、町の問題を自分ごととして捉え、よりよいまちづくりプランについて、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者を育成することにつながっていく。酒々井町では、この所有格意識を育むふるさと学習を通じた実質的な主権者教育を推進している。

## 4 実践状況(小学6年「酒々井のまちづくり」)

### (1) 社会科(政治学習)(7月)

小学校学習指導要領第6学年社会科の内容では「国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解すること」とある。これを踏まえ、酒々井学プログラム「酒々井のまちづくり」では、主権者教育と関連づけて、児童が暮らす町の生活環境の現状に対して関心を持ち、町民としての視点と参画意識に基づいた、主体的な学習活動を展開できるようにした。学習は、社会科の単元「わたしたちの生活と政治」と関連づけて、導入段階において、「町民の願いはどのように実現されるのだろうか」という学習問題で始めた。

### (2) 町役場との連携(7月)

企画財政課の職員から、児童に対して公共施設「プリミエール酒々井」(町立図書館)の建設の経緯について説明し、町民の願いを実現するための行政の仕組みについて解説してもらった。次に、酒々井町総合計画(子ども版)を使って、行政の



まちづくり計画についても説明した。

児童は、暮らしと行政の関わりを知ることで、自分たちの身近な生活環境を調べようとする目的意識を持つことができた。

そして、学習問題「酒々井町は、町民にとってくらしやすい町だろうか」を設定した。児童は、町の様子を想起して、予想「くらしやすい・くらしにくい」を立て、各自の予想を確かめる証拠(根拠)となる資料を収集する問題解決的な学習に取り組んだ。

### (3) 新聞活用における多面的・多角的な視点

これまでに児童が作成したまちづくりプランは、当然のことながら自分たちの身近な生活圏である学校、通学路、公園といったテーマが多かった。

そこで、児童の視野を広げるために、新聞記事の活用やSDGs(持続可能な開発目標)の視点を導入した(図1・2)。これは、新聞(県内版)の身近な他自治体のまちづくりに関する記事を参考にしたり、SDGsの視点で町の環境を見直したりする調査活動である。この調査内容を基に町行政の取組について、町の広報紙やWEBで確認したり、役場に直接質問したりする。この活動により、児童は多面的・多角的な視点でまちづくりについて考えられるようになった。



図1 廊下に掲示した新聞記事

新聞記事の掲示資料は、8社の新聞に掲載された千葉県内の自治体の行政等に関する記事を、「行政・環境・教育・生活・観光・産業」の6つのテーマに分類したものである。



図2 新聞記事を調べる児童(NIE活用)

酒々井のまちづくり	NIE活用マニュアル
★「まちづくり」は、曲のまちの様子や取組を知って、広い視野(見方・考え方)で考えることが大切です。新聞記事はそのヒントをくれる大切なアイテムの一つです。	
1. 記号の説明	
A 朝日新聞 Y読売新聞 M毎日新聞 T東京新聞 N 日本経済新聞 S産経新聞 C千葉日報 K日刊工業新聞	
2. テーマの説明	
行政・・・役所(役場)で市長(町長)の生活をささえるための政治を行うこと 環境・・・生き物などのすみ場所や人々の生活の場所(自然保護・生活保護・SDGs) 教育・・・学習や知識などが身につくように教えること(学校・公民館・博物館など) 生活・・・人間が生きていくために必要なこと(食べ物・水・道・安全・交通など) 観光・・・まちの自然、歴史や文化などのよさを観光に役立てること 産業・・・まちの特色ある農業や商業や工業などを広めてまかにすること	
3. 新聞資料の見方	
1 自分が興味を持ったテーマを見つけよう!	
2 テーマにある新聞の見出しを読み、関心を持った新聞記事を探してコピーしよう!	
3 必要な情報を記入しよう!	
①新聞名【 】 ②日付【 年 月 日】 ③テーマ【 】 ④市町村名【 】 ⑤見出し【 】	
4 コピーした新聞記事に、わからない言葉や大切な言葉をマーカーで色分けしてみよう!	
5 マーカーを引いたわからない言葉は辞典などで調べよう!	
6 ぐわしく知りたい場合は、新聞記事の情報を電話やインターネットを使って調べよう!	
7 自分のまちではどうなのか、まちづくりの視点でまちの様子を調べてみよう!	
8 自分が見たまちの様子について、役場(行政)での取組を町のWEBや広報紙等で調べよう!	
9 自分で見たまちの様子と役場の取組から、自分で考えたまちづくりプランを作成しよう!	

図3 NIE活用マニュアル

NIE活用マニュアル(図3)は、新聞資料の見方として活用する。①自分が興味を持ったテーマを見つける。②テーマにある新聞の見出しを読み、関心を持った新聞記事を探してコピーをする。③必要な情報を記入する。④コピーした新聞記事にわからない言葉や大切な言葉をマーカーで色分けする。⑤マーカーを引いたわからない言葉は辞

典などで調べる。⑥詳しく知りたい場合は、新聞記事の情報から電話やインターネットを使って調べる。⑦自分の町の現状について、町づくりの視点で観察する。⑧自分が見た町の様子について、役場(行政)での取組を町のWEBや広報紙等で調べる。⑨自分で見た町の様子と役場の取組から自分で考えた「まちづくりプラン」を作成する。

#### (4) 町の生活環境調査(夏季休業中の課題)

児童は日常の生活環境でのよい所や困る所に気付いて、町の暮らしの改善点を考えた。次に、行政サイドで場所の確認ができるように、調査地点が分かる地図を描き、状況が分かるように、イラストや画像を使うなどの表現活動を行った。

その後、調査内容を基に、自分で調べた(図4)町の生活環境の課題から考えたプランについて、文章や図を使い分かりやすく「まちづくりプラン」(酒々井町への願い)シートにまとめた(図5)。



図4 社会福祉協議会で調べる児童

#### (5) 「まちづくりプラン」シートの発表(9月)

はじめに選挙管理委員会の職員から、選挙の仕組みについて説明を受けた後に、学級ごとに各自の「まちづくりプラン」を発表し合った(図6)。

酒々井町への願い	小学校	名前
酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか?【くらしやすい・くらしにくい】		
理由 馬、公園が、多い、自然も、多い、(アウトレットなどの)お店もあって(便利)		
町のくらしの改善点	町の中で町民にとって困ることやあった方がよい物などを調べよう!	
大塚台小学校でも、ペットボトルの缶を集めているが、それはおぼろげな人が、できないからコンビニや公園に、ペットボトルの本体、ペットボトルの蓋などを、回収するボックスなども置いた方が、いいと思う。		
*場所がわかるように地図をかこう!		*状況がわかるようにイラストや写真を入れよう!
住居	そのまは捨てられている リサイクルする	
大森公園		
町への質問・提案	回収するボックスを置いてリサイクルし、	
*文章や図を使ってわかりやすくまとめよう!		
公園の、周りに見えやれ、場所に設置、近くに、ふつうのゴミ箱も置いて、ティッシュやおかしのゴミなどを、ボックスに入れさせないようにする、人がよく来る、近くに住居が多ある公園に、設置。		
SDGs	目標No	12 タイトル ぐる責任 つかう責任
目標	12.5	2030年までに、廃棄物の発生を、削減、再活用により、廃棄物の発生を、大幅に削減させる。

図5 児童作成シート「酒々井町への願い」



図6 シート「酒々井町への願い」の発表

#### (6) こども模擬選挙(9月)

学級ごとに発表した「まちづくりプラン」を基に、選挙管理委員会から借用した記載台と投票箱と実物と同じ素材の模擬投票用紙を使用して、模擬議会の代表者1名を選出した(図7)。本格的な選挙を模擬的に体験することで、緊張感の中にも、政治に主体的に関わる町民としての資質でもある主権者意識を育むことができた。



図7 こども模擬選挙



図8 こども模擬議会(コロナ禍前)

### (7) こども模擬議会 (10月)

総務課及び議会事務局と連携して、各小・中学校の児童生徒15名が一般質問を行う模擬議会を開催している。小学校からは、模擬選挙で選ばれた5名の児童が、

- ①町内の体育館へのエアコンや空気清浄機の設置
- ②公民館を子どもが利用できる施設に改修
- ③酒々井町の公園に発電ブランコの設置
- ④駅の空きスペースに、子どもも楽しめる床発電の設置
- ⑤リサイクルボックスの設置でリサイクル活動の推進

について質問と提案をした(図8)。

①は、コロナ禍に対応した設備について、②③は、新聞記事の他市の取組を参考にし、④⑤は、SDGsの視点に基づいたプランとなっていて、多面的・多角的な視点でまちづくりについて考えた内容であった。

### 5 まとめ

児童は、新聞記事を通して、他市町村のまちづくりに関わる行政的な取組について知ること、自分たちの暮らしの中での町のよさや改善点に気づくようになった。そして、町の現状を見つめてよりよい町にするための方策を主体的に考えるようになった。また、それを自分だけのプランに止めずに町行政に反映させることの可能性を感じ取り、主権者意識を育むことにつながった。以上のことから、この学習は、主題である「ふるさと学習を通した主権者教育の推進」に結びつく実践となったと考える。

本実践の課題としては、小中連携の視点から、中学校でのステップアップしたプログラム化と模擬議会後の児童生徒によるまちづくりについての協議の場の設定が求められる。今後は、学習指導要領「社会科」の目標である公民としての資質・能力の基礎を育成するためにも、児童生徒に単なる要望だけではなく、町のために自分たちにできることを考えて行動するための参画意識を更に高めていきたい。



# 子どもが新聞に親しむための工夫 ～環境整備と新聞を活用した授業を通して～

長柄町立長柄小学校 織田 純子

## 1 はじめに

本校は令和3年度からの2年間、NIE推進実践校の指定を受け、初年度の取り組みとなる。

新学習指導要領では「主体的、対話的で深い学び」が重要視されている。今回の改定を受け、本校でも、様々な場面で考えを伝え合う場を意図的に設定し、授業改善を行っている。そこで今回、新聞を活用した実践を通して、自分たちの考えや思いを伝え合う場を作り、思考力や判断力、表現力等を育成していきたいと考える。

本校の実態としては、社会への興味や関心はあるが新聞を読んでいる児童は少ない。このことから、まず初年度は、児童がもっと新聞を身近なものとして感じられるような環境づくりに取り組むことにした。新聞の面白さに触れることにより、一人でも多くの児童が新聞を手にとり、豊富な情報の中から、自分の求める情報を引き出し、生活に生かそうとする力を育てていきたいと考える。

## 2 実践内容

### 【新聞に親しむための環境づくり】

#### (1) 新聞コーナーの設置

児童の目につきやすい昇降口と図書室に、新聞コーナーを設置し、各社の新聞を手にとることができる場を設定した。また、話題性のあるニュースについては、掲示板に張り出し、社会のできごとに興味をもてるようにした。

図書室には新聞の構成について分かりやすくまとめた掲示物を用意し、「見出し」や「リード文」などの用語についても紹介をした。低学年でも壁新聞にまとめる活動ができるよう、学校図書館司

書書の先生と協力して、分かりやすい掲示物を作成するよう心がけた。



#### (2) 放送委員会による新聞記事の紹介

昼の校内放送の際、放送委員会の児童が気になる記事を選び、校内放送で紹介する活動を行った。全校児童が興味をもつような記事を選ぶ姿が見られ、情報の取捨選択の力がつきつつあると感じる。

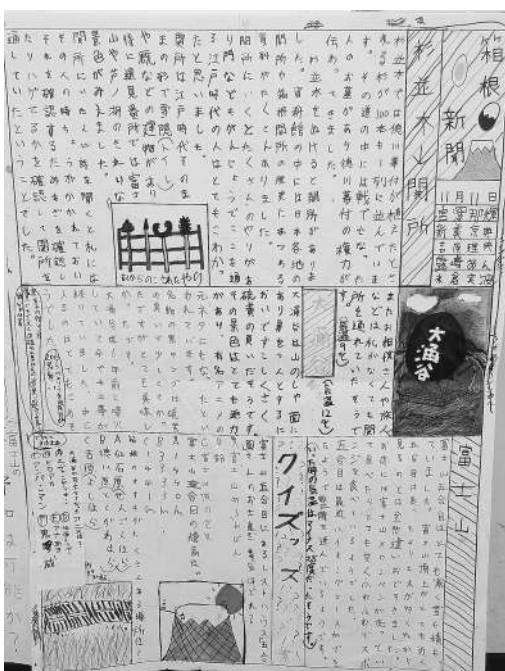
また、オリンピックや動物に関する記事など様々なジャンルの内容を紹介してくれるので、興味をもって聞く様子が低学年でも見られた。新聞を身近に感じる活動として、今後も継続して行っていきたい。



### (3) 壁新聞の活用

様々な行事や校外学習などを通して、感じたことや分かったこと、みんなに伝えたいことなどを壁新聞に書いてまとめる活動を行った。学年の発達段階に応じて、文章量や内容は異なるが、どの学年も新聞の構成を意識しながらまとめるようにした。その際、本物の新聞や図書室の掲示物を参考にしながらまとめる姿が見られ、新聞を手にとる機会が増えた。

また、「誰に伝えたいのか」「どうして伝えたいのか」など相手意識や目的意識をもって、分かりやすくまとめるようにしたので、自分の考えや思いを伝える活動として、有効だったと感じる。



### 【新聞を活用した授業実践】

< 5年生の実践 >

#### 「新聞記事のスピーチ」

5年生は、朝の会の取り組みで新聞記事のスピーチを行った。日直が興味をもった新聞記事を選び、スピーチカードにまとめて発表した。新聞記事の切り抜きをカードに貼って掲示をしたので、友達が選んだ記事を興味深く読む姿が見られた。

また、発表の際には、ただ記事を紹介するのではなく、その記事について考えたことや感想も書いて発表するようにしたので、自分の考えを友達に伝えるよい機会となった。

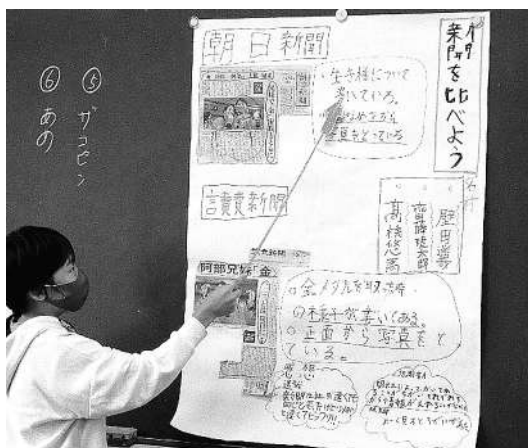


#### 「国語科 新聞記事を比べよう」

5年生の国語科「新聞記事を比べよう」の学習では、子どもたちの関心が高かったオリンピックの新聞記事の中から特に興味深かった内容を選出し、2社の新聞記事を比べる活動を行った。新聞記事の構成と写真の役割や、「見出し」「リード文」などの理解をし、新聞記事を読み比べることで、書き手の取り上げる内容と意見によって構成が変わることに気付くことができた。新聞が何を伝え



たいのか要旨についても着目し、自分だったらどのような見出しをつけたいかを考えた。新聞を詳しく読む中で、新たな発見をすることができた。



### < 3年生の実践 >

「総合的な学習 長柄の魅力を伝えよう」

3年生は、総合的な学習の時間に自分たちの住んでいる長柄町について調べ、まとめた内容を発表する学習を行った。

今回は、グループごとに調査した内容を壁新聞にまとめて友達に伝えることにした。まず初めに新聞の構成についてのガイダンスを行った。学校図書館司書の先生が新聞の構成や特徴について詳しく説明することで、ゴールの姿を明確にすることができた。また、実際の新聞をグループで見ながら、見出しの大切さや、割り付けの方法などについても学んだ。長柄町の自然や文化、特産物やゆるキャラなど、内容は多岐にわたり、どのグルー

プも意欲的に壁新聞にまとめて、伝え合う姿が見られた。



### < 1年生の実践 >

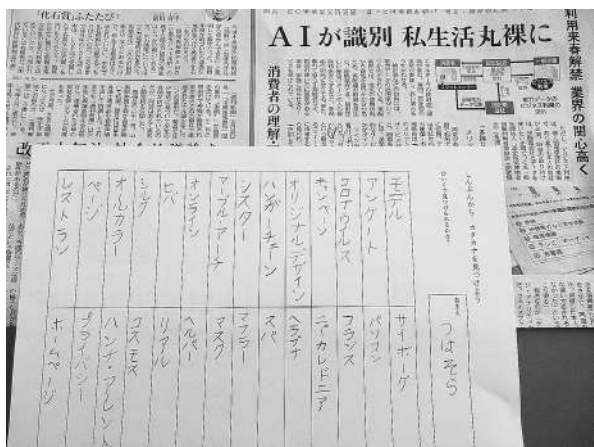
「国語科 新聞からカタカナを見つけよう」

これまでに、カタカナの正しい書き方や似ているカタカナに気を付けて書くなど、基本的な学習は終え、多くの児童がカタカナを書けるようになってきた。そこで、カタカナ学習の発展として、新聞の中からカタカナの言葉を見つけて、ワークシートに書きだすという活動を行った。

普段、大人の新聞を目にする機会はほとんどない1年生だが、記事の中からたくさんのカタカナを見つけることができ、身近な生活の中に多くのカタカナが存在することに気が付くことができた。「カナダ」などの国名や、「コロナウィルス」「ワクチン」などの時事ワード、スポーツ選手やチーム名など種類は様々で、自分の興味のある言



葉を見つけることに意欲的であった。低学年にとって、新聞の内容を理解するのは難しいが、新聞を身近に感じるよい機会になったと思う。



### 3 成果と課題

<成果>

- ・子どもたちが新聞を手にとりやすい場所に「新聞コーナー」を設置したり、気になる記事を校内放送で紹介したりすることにより、新聞記事に興味をもつ児童が増えた。
- ・数社の新聞を読み比べる活動を通して、伝えたい内容の違いや構成の違いなど、情報を発信する側を意識して読む姿が見られた。
- ・自分の興味をもった記事を紹介する活動を通して、情報を取捨選択する力や、自分の考えを伝える力を身に付けることができた。
- ・学校図書館司書の先生の協力で、新聞の構成等

について詳しく説明することができた。今後も、T・Tなどを活用して、効果的な学習ができるようにしていきたい。

<課題>

- ・授業の中にどのような方法で新聞を効果的に取り入れていくか、もっと教材研究が必要だと感じた。今年度は、国語科での活用が多かったが、他教科での実践にも挑戦していきたい。
- ・新聞に興味をもち、身近に感じることはできたが、やはり漢字や語彙が難しく、内容を理解するのに時間がかかってしまう。新聞を難しいものにとらえずに、たくさんの情報がつまった面白い情報収集ツールと感じてもらうには、どのような手立てがあるのか考えていきたい。

### 4 まとめ

今回、NIE推進実践校の指定を受けたことにより、新聞を身近に感じる児童が増えたことが一番の成果だったと思う。今後いっそうICTの活用や情報化社会が進むことが予想されるが、活字を読むことの楽しさや素晴らしさも忘れてはならない重要なことだと改めて感じた。

次年度は、様々な学年や教科で新聞を活用した実践ができないか探り、より新聞を身近に感じられる環境を整えていきたい。

# N I E活動を通して ～身近なニュースから学習意欲につなげる実践～

千葉市立緑が丘中学校 樽田 慎平・斎藤 聡

## 1 はじめに

本校は、令和2年度から令和3年度にかけてN I E実践校の指定を受け、実践を行ってきた。令和2年度の実践では、新聞に触れる機会をつくることで、普段新聞を読む習慣がない生徒の関心を引き出し、社会の出来事に対して意欲的に考える態度を育むことができた。

令和3年度は、前年度の取組を継続、発展させて、生徒の社会に対する思考力・判断力・表現力の育成につなげられるよう取り組んだ。

## 2 実践状況

### (1) 日常の取組

#### ① 掲示物

図書館指導員と協力して、各階の階段の踊り場の掲示板に新聞の掲示スペースを作り、普段の登下校時に自然と目に入るような機会を増やした。新聞記事については、季節やイベント、旬なニュースを取り扱った新聞記事を掲示している。また、掲示する際に注目させたい部分に付箋を貼り、解説を書き込んだり、トピックとして大きく取り上げたりして、生徒が関心をもって新聞に親しめるよう工夫した。



#### ② 図書室閲覧コーナーの設置

図書室では、生徒が新聞に慣れ親しめるように図書室の出入りに新聞閲覧コーナーを設置している。生徒が新聞をめくり、興味のある面を探して読む姿が見られた。

### (2) 授業での取組

#### ① 社会科

社会科の授業の中で、新聞記事を配付し、その記事を読み取り、意見・感想を書く活動を行った。ただ新聞記事を読ませるだけでなく、教師が記事について解説をし、生徒が記事を理解できるようにした。その結果、生徒と社会情勢をつなげることができ、「もっと新聞を読もう。もっとニュースを見よう。」と生徒の社会への意欲を高めることができた。

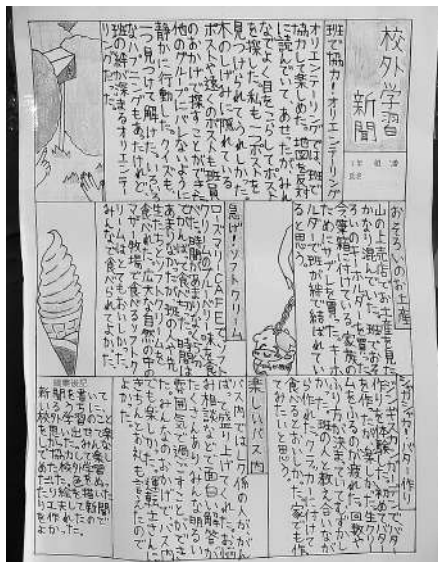
この取組を継続したことで、新聞記事を理解するだけでなく、内容について批判的に考えたり、内容から関連することを考えたりするなど、生徒の思考力・判断力・表現力を育むことができた。





②各教科、総合的な学習の時間での横断的な取扱い

各教科の授業や総合的な学習の時間で、新聞を作る取組を行った。その際に、実際の新聞を参考にすることで、記事に注目させるために太字で見出しを書いたり、わかりやすくするために絵や図を描いたりするなど、生徒たちの作った新聞に様々な工夫が見られた。



3 結果

- ・生徒の新聞に対する関心を高めることができ、社会の出来事を理解しようとする意欲が見られるようになった。

- ・社会科の授業や学活で、社会情勢について質問や議論をする生徒が増えた。
- ・新聞を読むことで文章から必要な情報を読み取る力や、図やグラフの見方・読み取り方を身に付けることができた。
- ・新聞記事を読み、内容について考えることで、社会情勢についての自分の意見がもてるようになった。

4 考察

2年間のNIE教育の実践を通して、生徒の発言や意欲的に新聞を読む様子から、生徒の新聞やニュースへの関心は高められたと考えられる。ただ、近年は生徒の身の回りにスマートフォン、パソコンなどのデジタル機器が多く存在するということもあり、新聞に親しむ機会は少ないままであると考える。また、令和3年度から千葉市は生徒にタブレットパソコンが1人1台配付され、各教科の授業や学級活動で活用を進めている背景がある。このまま学校で新聞を読む活動を行わなくなると、この2年間に高まった社会への関心や活動によって培われた力が失われてしまう恐れがある。そのため、今後も新聞などの“活字”を読む活動を継続し、更に思考力・判断力・表現力の育成を進めていきたい。

5 まとめ

NIE教育の実践により、生徒が新聞を読むことを通して社会情勢への関心が高くなり、学習意欲の高まりが感じられた。思考力・判断力・表現力の育成のために次年度以降も新聞を活用し、この2年間の実践で得られた成果をもとに、教育活動に取り組んでいきたい。



# ～思考力・判断力・表現力の育成～新聞を活用して～

香取市立新島中学校 松井 初美

## 1 はじめに

本年度より中学校では新学習指導要領が完全実施となった。その中に、生徒の生きる力を育むために「生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するように配慮すること」とある。言語活動の充実や家庭との連携を図るには新聞の活用はとても有効であると考えられる。学習指導要領の中にも「新聞」を教材として活用する記述が多くある。

また、SDGsや情報社会のグローバル化が注目を浴び、各教科、領域で教材として活用する場面が見られる。そのような時、教科書教材だけではなく新聞を活用することで、より効果的な学習が行えると考えられる。

本校はNIE実践校1年目である。実践校になるにあたり4月に新聞に関するアンケート調査を行ったところ、新聞を購読している家庭が62.5%で、中学校で新聞を初めて手に取るという生徒もいた。生徒たちのほとんどが、テレビやインターネットから情報を得ていることもわかった。しかし8割の生徒が「読む力がつく」「情報をしっかりと理解することができる」等の理由で新聞を読むことが必要だと考えている。このような実態の中でどのような実践ができるか試行錯誤してみた。

毎朝図書委員がその日の新聞に置き換えた。本校の図書室は2階ホールの一角にあるオープンスペースなので、生徒も気軽に新聞を手にとることができる。また、新聞コーナー付近にベンチも設置し、座って新聞が読めるように配慮した。

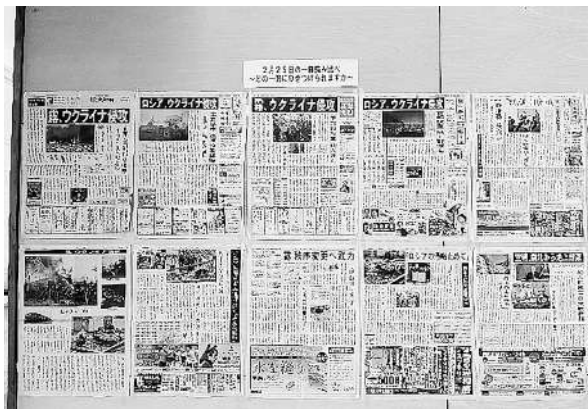
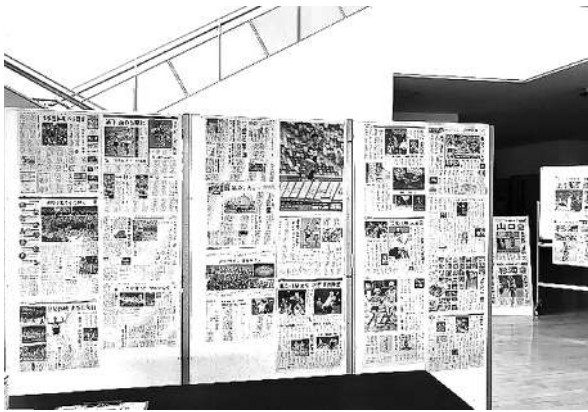
図書室以外にも、1階の生徒昇降口付近や廊下に気になる記事や読んでほしい記事をピックアップし掲示した。今年度は東京五輪・パラリンピック、北京五輪・パラリンピックが開催され、それに特化するコーナーも設けた。



## 2 実践状況

### (1) 新聞コーナーの設置

図書室に新聞コーナーを設置し、新聞を手に取りやすい環境を整えた。閲覧台と新聞ラックに、



## (2) 授業での取り組み

### ① 1年国語

「みんなで読もう新聞コンクールに応募する」

新聞の読み方を学んでから、興味ある記事を選び、気になる部分に線を引きスクラップした。夏休みの課題にしたので、じっくりと記事を読んで選んでいる様子が見えかけた。自分で記事を決め、記事に対する感想や意見を書き、その記事を家族等にも読んでもらい、意見を共有する。他者の考えに触れて、さらに自分の意見を深めた。初めは新聞を読んだり、記事を見つけたりするのに慣れない様子だったが、友達と見つけた記事について意見を交わす場面も見られた。ちょうど東京五輪・パラリンピック開催の時期だったので、それにまつわる記事を選ぶ生徒が多いのではないかと予想したが、火星探査や都内でのわさび栽培、海外に関するものなど、選んだ記事は多岐にわたっていた。

### ② 2年国語

「新聞の投書を書く」

教科書(教育出版)に「新聞の投書を書く」という題材がある。新聞の投書を読み、どんな話題でどのように書いているかを学んだ後、テーマを各自で考えて投書を書いた。書いた文章は、新聞社の投書欄に送った。

### ③ 3年国語

「社説を比較する」

教科書(教育出版)に「社説を比較する」という題材がある。教科書には2018年に大坂なおみ選手が全米オープンで初優勝した二紙の社説が掲載されていた。まず、教科書の社説を使い、2つの社説の違いが分かるように、事実やそれに対する考えに色分けをして線を引かせた。そして特徴やどのような視点から書かれているかを考えさせた。次に、新聞に掲載されている社説を使って比較を行った。

#### 【使用した社説】

- ・「東京五輪開幕へ」(2021.7.23読売)
- ・「東京五輪開幕」(2021.7.24読売)
- ・「五輪きょう開会式」(2021.7.23朝日)
- ・「コロナ下の東京五輪」(2021.7.24毎日)
- ・「東京五輪開幕」(2021.7.23産経)
- ・「東京五輪きょう開会」(2021.7.23東京)
- ・「五輪開幕に考える」(2021.7.24東京)

コロナ禍でのオリンピック開催は生徒たちも賛否両論であった。複数の社説を読み比べることで、コロナ禍での開催に比較的肯定的に書いているものや、厳しい側面を指摘している社説があることを実感している様子が見えかけた。生徒が興味・関心をもって読めるテーマの社説を活用することにより、読む意欲も高まり、考えを深めることができた。

#### ④3年社会

##### 「公民的分野での活用」

なぜ裁判員裁判という制度があるのかを新聞記事から読み取らせた。裁判員裁判は国民自らの視点や感覚が裁判に反映されることを目的として行われている。しかし、裁判員に選ばれた人には、被告人の運命を決めなければならない責任がある。そのような課題についてリアリティのある新聞記事から読み取らせることで、生徒の意識も変わるのではないかと考えた。生徒たちは複数の新聞記事を読み比べて裁判員制度について調べることができた。裁判員裁判に参加した人の感想などがリアルに記事になっているので、生徒たちもじっくり読んでいた。教科書には載っていないことも知ることができた。

#### ⑤3年総合的な学習の時間

##### 「福祉教育での新聞活用」

パラリンピックが開催されるにあたり、バリアフリーやパラスポーツ、パラリンピックについて各自でテーマを決め、調べ学習を行った。新聞や書籍、インターネットを活用し情報を得、調べたことと自分の考えを学習新聞にまとめた。コロナ禍で学習活動の制限があったため、生徒同士の情報共有と意見交流は「Teams」のチャット機能を活用して行った。Teams活用の利点は2つあった。1つは自分のペースでクラスメイトの作成した新聞がじっくり読めること。2つ目はチャットで意見交流することで、普段おとなしくなかなか発言できない生徒もどんどん書き込めたことだ。今後も新聞とICTの複合活用は行っていきたい。

### (3) 校全体での取り組み

#### ①道徳・特活での活用

教員も日頃から新聞を読み、道徳、特活、総合的な学習の時間等で使える記事をストックし、共有するようにした。特に道徳は教科化され、「考え、議論する道徳」が掲げられている。新聞記事の話題は多岐にわたり、生徒に様々な課題を投げかける。リアルな身近な出来事を自分事として考えさせることができる。実践校だからと一過性にならず、継続して行っていきたい。

#### ②コラムの視写

国語の朝学習でコラムの視写を続けている。

- ・担当教員がコラムを選びワークシートを作成する。
- ・読みながら気になる部分に線を引かせる。
- ・わからない語句を辞書で調べる。
- ・視写をする。
- ・コラムの見出しを考える。
- ・コラムに対する意見や感想を文章で書く。

最初は、読むのも書くのも時間がかかったが慣れてくるとどんどん速くなってきた。また、見出しを付けることによってコラムをどのように捉えているのかがわかった。感想や意見の文章量も徐々に増えてきた生徒もおり、学習効果はあったと考えられる。

#### ③今年の10大ニュースを考える

12月に日本の10大ニュース、海外の10大ニュースを記事を読みながら考え、新聞社に応募した。

#### ④「あなたの心に残るオリンピックシーンは？」

昇降口付近のホール到北京オリンピックの記事を掲示し、印象に残った記事に付箋をつける活動を行った。付箋には選手の活躍をたたえる言葉等が書かれていた。





情報収集の手段としてテレビだけ、SNS だけではなく、新聞をぜひ加えてほしいと思った。

コロナ禍でグループでの学習活動が制限され、意見交流など考えを深める場面をあまり設けることができなかったことが課題である。次年度は改善していきたい。また、NIEとICT活用を上手く組み合わせ、さらに生徒の思考力、判断力、表現力を向上させたい。

### 3 考察及びまとめ

GIGAスクール構想で本校も今年度より1人1台端末が導入された。日頃からスマートフォンやPCを使い慣れている生徒は、調べ学習の際にインターネットに頼りがちになる。しかし生徒たち自身も新聞を読む必要性を感じることがアンケートよりうかがえた。そこで1年時で新聞の特徴や紙面構成に触れ、新聞記事の読み比べ等を通して、親しみをもたせるような場面を設定した。

学年に応じていろいろな場面で新聞を活用し、情報を自分なりに活用している生徒の様子が見られた。特に新聞を読んで、事実や状況などをつかみ、自分の考えを深められたことが生徒の感想やコメントでもうかがえる。

10大ニュースを選ぶときの生徒の会話を聞いてみると、1年間の出来事をしっかり振り返りながら、自分なりにそのニュースが日本を含め世界にどう影響したかを考えていることがわかった。

# 新聞を通して、社会事象を自分事として捉える

千葉市立新宿中学校 鹿子島 美里・嶋添 誠也

## 1 はじめに

本校は、N I E教育推進の指定を受け、1年目の取組となる。

本校の研究主題は「学びの手応えを実感させる学習指導の工夫～「深い学び」に向かう授業改善を通して～」である。「学びの手応え」とは、授業で学習したことが自分たちの生活している実社会とつながっているという実感をもつ(社会事象を自分事として捉える)ことであると考え。そのきっかけとして新聞を活用することで、現代で起きている出来事が身近な問題であることを認識させ、自分事として捉えさせたいと考えた。

## 2 実践及び結果

### (1) 新聞を活用した授業実践

#### ①社会科1年「新聞記事の紹介スピーチ」

新聞を通して社会事象への関心をもたせるため、新聞記事の紹介スピーチを行う場面を設定した。

実践は以下のように行った。

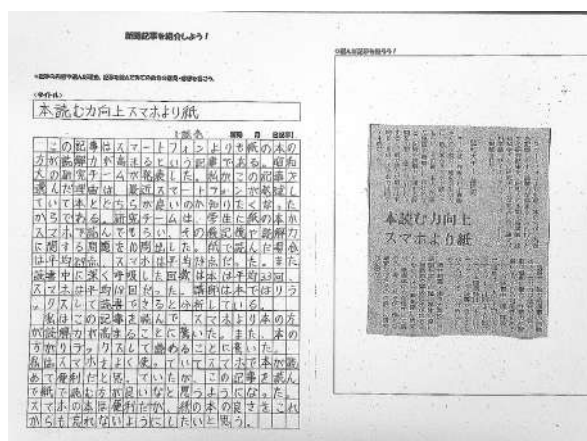
- ・関心をもった新聞記事を選んで切り抜き、原稿に貼る。
- ・原稿には、その記事を選んだ理由、記事の内容について、記事(出来事)に対する自分の考えをまとめる。
- ・その原稿をもとに班でスピーチを行う。
- ・聞き手もスピーチを聞いて考えたことをまとめる。

この活動を通して、

- ・新聞やニュースへの関心が高まった。
- ・友人の考えを聞く良い機会となった。

・今の自分たちが考えなくてはいけないことがたくさんあると感じた。

などの振り返りが見られた。テレビで観るよりも新聞の方が詳しく知ることができ、より深い内容の理解につなげることができた。



#### ②社会科地理分野「自然災害と防災への取組」

北海道地方の単元において、現代で見られる自然災害とその対策についての学習を行う際、「雪害」の事例紹介として新聞記事を用いた。

「雪害」という言葉について解説する際、実際の新聞記事を用いたことで、授業後における生徒の振り返りの内容がより現実味を帯びたものになった。地理の授業に新聞記事を用いることで、生徒たちは学習内容についてより想像しやすくなるのではないかと考える。

#### ③社会科公民分野「メディアリテラシー」

社会科「民主主義」の単元において、「新聞でメディアリテラシーを身につけよう」という学習活動を実施した。新聞記事を用いて、以下の活動を行った。

### ○社説の読み比べ

憲法改正に関する社説を読み、事実を述べている部分には直線、意見が述べられている部分には波線を引く。

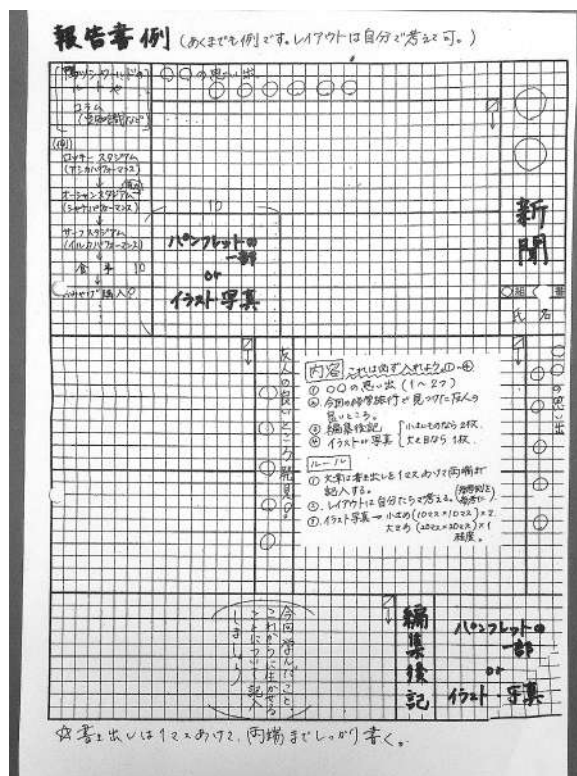
### ○世論調査の比較

集団的自衛権に関する世論調査の結果を新聞社ごとに比較し、読者がどういう印象をもつかを考える。

### ○グループワーク

以上の2点について、なぜそのような違いが生まれるのかを考え、話し合う。

生徒たちはこれらの活動を通して、新聞は発行する新聞社によって記事にする内容や論じ方に違いが見られ、それによって世論が形成されていることを実感し、理解できた。また、情報を多面的・多角的に読み取ることの重要性を実感していた。



### ○校外学習の前に構成を考えさせる

新聞作成における指導は事前指導の中で実施した。予め「どんな新聞にしたいか」という見通しをもち、「どんな記事や写真が必要か」ということを念頭に置いて修学旅行や校外学習に臨ませることをねらいとした。旅行中はメモを取る姿も見られ、旅行後の新聞作成をスムーズに行うことができた。

また、作成した新聞は廊下に掲示し、互いの新聞を見る機会を設けた。これらの活動を通して生徒たちは、情報発信や自己表現のツールとしての新聞の有用性を実感することができた。

### (2) 新聞への関心を高める日常の取組

#### ①「新聞掲示コーナー」の設置

図書館指導員と協力して、図書室の前や教室に新聞を掲示し、生徒たちが普段の生活の中で新聞に触れる機会を設けた。掲示する新聞については、生徒たちが関心をもつものや見出しで生徒たちの気を引くニュースを取り扱い、関心

#### ④ 2・3年総合「修学旅行・校外学習の新聞作成」

総合的な学習の時間において、修学旅行や校外学習の報告書を新聞形式で作成するという言語活動を行った。自分が学んだことや経験したこと、感じたことなどを新聞という手段を用いて他者に分かりやすく伝えるという活動である。

新聞作成の授業を実施する上で、生徒たちが普段新聞を目にする機会が減っており新聞作成のイメージが持ちづらいのではないかという懸念があったため、以下の2点に留意して指導を行った。

### ○作成モデル(ひな型)の提示

どのような新聞を作成し何を伝えたいのかというイメージがもてるよう、教師作成のひな型を用いて、新聞作成における作成のポイントを伝えた。そのひな型を参考にすることで、生徒は作成における見通しがもてるようになった。



をもってもらえるように工夫している。生徒は、新聞に興味をもち、授業で新聞の内容を話題にした際に意欲的に話す姿が見られた。



が考える機会となるようにしたい。

#### 4 まとめ

1年目の今年、N I E教育の実践について、新聞のどのような活用方法があるか悩みながら進めてきた。生徒たちの新聞やニュースへの関心が高まり、現代社会で起きている様々な社会事象について考える良い機会となった。しかし、新聞掲示や一部の教科での実践に留まってしまった。次年度は、今年度の取組を継続しながら、様々な教科で新聞を活用した授業を考え、学校全体で取り組んでいきたい。

#### ②社会科全学年「定期テスト時事問題」

社会の定期テストでは、時事問題を出題している。図書室前の新聞などから出題することで、新聞への関心を高めるきっかけとした。また、単に話題となっているニュースだけでなく、授業で学んだ内容に関連しているものを優先的に出題することで、学習内容と実際の社会との関連についてより深く実感させる機会とした。

### 3 考察

1年間のN I E教育の実践を通して、生徒の新聞やニュースへの関心が高まり、社会事象を自分事として捉える姿が見られた。その一方で、家庭での新聞の購読率が低く、授業での新聞の活用方法に難しい部分があると感じた。

しかし、新聞は自分の関心のある情報だけを手に入れるのではなく、色々なニュースを目にすることができるため、現代社会で起きている様々な社会事象を知る機会となる。新聞を授業で上手く活用し、現代社会で起きている問題について生徒

# 令和3年度 N I E実践報告

市原市立市原中学校 木下 和巳

## 1 はじめに

市原市は人口およそ27万人で、北部には東京湾に面した工業地帯と商業施設や住宅地が集まっています。南部は山間地域であり、市の中央を南北に養老川が縦断し中央部には田園風景が広がっています。少子化・高齢化も進み、生徒数も年々減少しています。本校も1982年をピークに生徒数は徐々に減少し、今年度は全校で123名の小規模な学校です。本校は2つの団地(国分寺台、辰巳台)に挟まれた、田畑と山林の広がる学区で、親の代、祖父母の代もこの学校に在籍したという家庭も多い地域です。N I Eの実践に取り組むに当たって、まず生徒たちが実際に新聞に触れる機会がどのくらいあるのかを調べてみました。すると本校の現状として、新聞を購読していない家庭が6割、新聞を読まない生徒の割合が8割という結果がでました。インターネットから多くの情報を得ることが多い生徒にとって、新聞は身近なものとは言えない状況にあることがわかりました。

## 2 実践及び結果

そこで、まずは新聞の見出しやレイアウトの工夫などの「新聞のしくみ」を知るところから学習を始めました。見出しの付け方や記事の配列の工夫を紹介し、見やすくわかりやすい紙面作りをしていることを学びました。その上で、修学旅行や校外学習で、活動のまとめを個々に、あるいはグループで新聞として作成することにしました。生徒は、「一番伝えたいことは何か」ということを意識しながら、それぞれが工夫を凝らして、見やすくわかりやすい新聞を作ることができました。

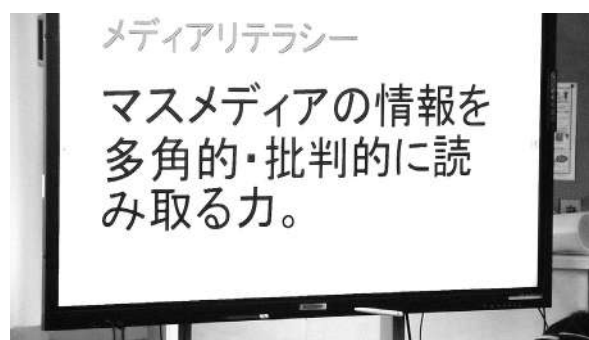
また、新聞を身近に感じてもらうことも必要だと考え、各担任にお願いして、帰りの短学活での担任の講話に新聞記事を話題として取り上げてもらう機会を作るようにしました。その際、記事のコピーを示したり配付したりすることで、新聞を読む機会を作るように意識しました。

更に、授業で教科に関連する内容の記事を取り上げ、様々な角度から生徒が新聞に触れる機会を増やしています。3年生の社会(公民分野)では、今年行われた総選挙に関する記事を取り上げました。選挙の仕組みを理解する上で、教科書に書かれている内容をより具体的に知り、よりリアルに感じることはできたのではないかと思います。新聞を活用して内容が理解しやすくなり、わかりやすく学ぶことによりニュースで話題になっていることと学校での学習がうまくつながるようになる。学びがより深まる、ということを生徒も教師も実感できた学習でした。また、選挙の取り上げ方が新聞社によって異なることに気づかせ、メディアリテラシーについても学ぶことができました。

## 3 今後の取り組み

正直なところ今年度は、N I Eについてあまり計画的に取り組めてはいませんでした。今後の取り組みとしては、やはり原点に立ち返り、「新聞に親しめる環境を作る」ことを行っていきたいと思います。記事の配布や、内容を話題として取り上げること、内容の要約など通して生徒が新聞に親しむ環境を整える工夫をしていきたいと思えます。

また、多くの記事に触れることで、読解力や思考力を高めることもできるので、そうした取り組みも計画的に行っていきたいと思います。活動の時間を確保することが課題となりますが、日常のわずかな時間をうまく活用できるように、内容を考えて、継続的な活動ができるように工夫していきたいと思います。





# 「主権者教育に新聞を」

千葉県立国府台高等学校 大塚 功祐

## 1 はじめに

「主権者教育」というと、「模擬投票」など選挙に関する学習だと考えていた。しかし、授業を重ねていく中で、本当にそれでいいのかと疑問を感じるようになった。昨年の衆院選の18歳投票率は約51%、一方、19歳投票率は約35%だった。選挙に関する学習によって一時的に生徒たちは投票に行くが、継続して投票に行くことにはつながっていないといえる。日々、主権者であることを意識し、自分で考え、行動し、政策決定にかかわっていく実感を日常的に自覚することが大切だと思う。そのために新聞を活用することは有効だと考え、「議論する」「多様なものの見方を知る」をテーマにいくつか実践を行ってきた。



## 2 実践状況

### (1) 新聞を身近に

本校生徒の家庭での新聞購読率は41.9%。定期購読をしている家庭は半分もない。身近に新聞がある環境を作り、いつでも情報に触れられるようにしている。本校図書館の司書・大川信子先生を中心に図書室前の廊下に新聞コーナーを設置していただいた。生徒の中には新聞を手に取り、友人と議論する者や切り抜きを希望する者も見られた。



### (2) 沖縄の高校生と紙上議論する

現代社会の授業で沖縄の「普天間飛行場問題」を取り上げた。沖縄の基地問題の歴史的経緯から日米安保条約の中身まで学んでいく中で、この問題は現在進行形の部分も多い。そこで過去の新聞記事を配布した。「解決策を探る」ことをテーマ

にポイントとなる部分をグループでマーカーを引く作業を行った。

その中で生徒の一人から「沖縄の高校生の生の声が聞いてみたい」との声があり、沖縄県立普天間高等学校との手紙交流が実現した。

### 交流校

…普天間飛行場のすぐ隣に位置し、騒音問題やすぐ近くを飛ぶ飛行機に恐怖を感じながら学校生活を送っている。

### 2学期前半

高校生宛に手紙をしたためる。観光情報などの交流をしても良いが、必ず基地問題に触れる。約120名分の手紙が完成し、送付。

### 2学期後半

普天間高校の2年生を中心に、すべての手紙に返事を書いていただき、返信があった。

生徒同士で手紙を読み合う。

### 3学期冒頭

手紙を読んで、グループごとに基地問題の解決策を探るため議論する。新聞記事も活用する。議論後、改めて返事をくれた普天間高校の生徒に手紙を出す。

### (3) 衆院選に向けて

2021年10月に行われた衆院選に向けた事前学習で新聞を活用して行った。

#### 国会議員に質問を考える

6月、衆院解散を前に、「安全保障」「景気回復」「コロナ対策」などの政策の優先順位を考える。「コロナ対策」を優先順位の上位にする班がほとんどだった。

それをもとに、国会議員に質問を考える。マインドマップも使用した。質問書にまとめ、全ての国政政党に送付した。



### 質問内容

- ・ 高校生の優先順位は？タブレットの支給や和式トイレの洋式化をお願いした。
- ・ コロナ対策は？コロナ後はどんな日本にしたいか？
- ・ 男女平等に対する考え方は？
- ・ ヤングケアラー対策は？
- ・ 国民に我慢してもらうことは？

7つの国政政党の国会議員から Zoom（動画）で回答をいただく。

#### 事前学習

### 公示後の授業

公示後翌日の新聞各紙の一面を使用する。今回の選挙の争点がわかりやすくまとめられている。合わせて、公示日の党首第一声の記事を配り、どの主張がどの政党の主張かクイズ形式で考える。

政策ごとの比較記事を活用し、自分の考えに近い政党を検討する。

### 政策意見交換会

各政党に回答していただいた動画を披露した。

#### 模擬投票

自由投票だが、投票率は90%を超えた。



### 3 まとめ

こういった「議論する」「様々な考え方にふれる」取り組みを1年間行ってきた。この積み重ねが当事者としての自覚を生み、若者の投票率向上につながると思う。最後の授業で書いた生徒の感想を紹介する。

- ・受け身で教えてもらうだけでなく、「なぜ?」「本当か?」「自分だったらどうするだろう?」と考えるクセができた。(2年女)
- ・自分では思いつかないような意見や考え方をみんなが持っていて、こういう考え方もあるんだと発見があった。(2年女)
- ・決めつけがあったが、柔軟に意見を受けとめられるようになった。意見を交わすと、AでもBでもない、Cという発想が生まれると知った。(2年女)
- ・自分からしたら正義と思うことも、相手からしたら悪ということもあると知った。(2年女)
- ・当事者の視点だけではなく、第三者の立場からも色眼鏡をはずして見据えなければならぬと学んだ。(2年男)
- ・家に新聞が置いてあると、少し見てみようと思うようになった。世の中を知らないはずだと感じた。(2年女)
- ・自分の生活で仕方がないと思っていることも変えることができるかも知れない。行動を起こすにはどうしたらよいかを考えるきっかけとなった。(2年女)
- ・きれいごとではなく、現実を見る力がついた。都合のいい所だけ見るのではなく、背景まで見られるようになった。(2年男)



# N I E実践報告

千葉県立四街道北高等学校 公民科 内山 浩史  
協力者 鷲尾 (公民)、内田 (英語)、加藤 (家庭)

## 1 はじめに

本年度より指定を受け、家庭科(保育、少子高齢化、SDGs 関連記事)・英語科(The Japan News、朝日ウィークリー)・公民科で実践しました。以下、公民の実践例を3つ報告します。

## 2 実践状況

### (1)「ペタッとSDGs (新聞ふせん学習)」(朝日新聞)

現代社会(1年)の授業(1学期)

- ①SDGs (持続可能な開発目標) の17のゴールを意識しながら、記事を探す。
- ②記事を実用紙に貼りつけ、17のゴールのうち関連するゴールのふせんを選び、「つぶやき」を書いて貼る。
- ③グループで発表し共有する。

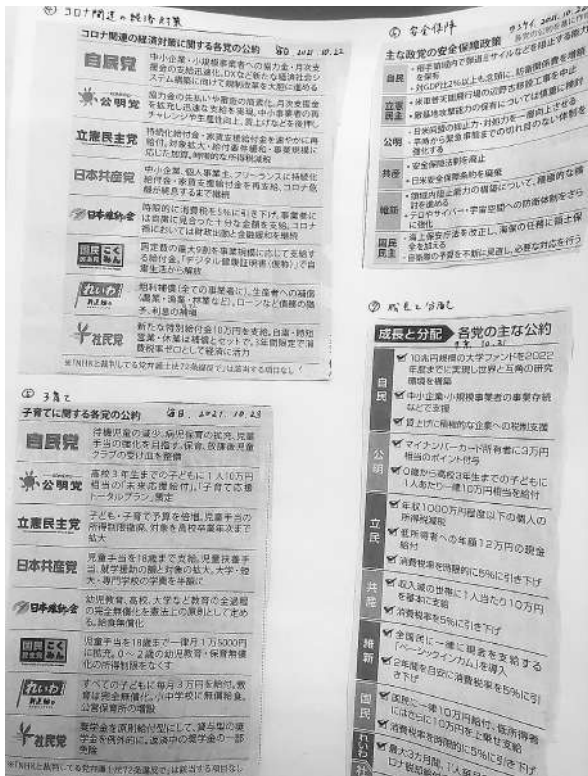


### (2) 新聞記事を使った衆院選模擬投票 (比例代表のみ) です。

政治・経済(3年)と現代社会(1年)(2学期)

- ①新聞記事の中から政党の政策比較できる記事を7つ印刷して配付
- ②記事を見て政策に○(いいね)、△(微妙)、×(だめ)をつける。
- ③○、×の数を見て支持政党を決める。
- ④まわりと話し合う
- ⑤投票する。





初めて公表した。498人が死亡し、1500人余りが負傷したという。実際はさらに多いとの見方もある。戸惑いながら戦って傷ついた人、倒れた人もいるのではないかと▼一人の兵士の視点から戦争への疑問をつきつけるのが、シャンソンの名曲「脱走兵」だ。フランスの作家ボリス・ヴィアンの手によるもので、招集令状を受け取った男がこんな手紙を書く。〈大統領閣下／私は戦争はしたくありません／可哀相(かわいそう)な人たちを殺すために／生まれてきたからではないからです〉▼脱走を決意し、大統領に求める。〈血を流さなければいけないのなら／あなたの血をどうぞ〉(村上香住子(かすみこ) 訳)。レコードが発売された1950年代は、アルジェリア戦争に多くのフランス人が招集された。殺す側になりたくないとの思いが人々に響いたのだろう▼大義のかけらもない侵略戦争を始めたあの大統領は、いつまで人殺しを命じつづけるのか。

(2022年3月4日朝日新聞  
「天声人語」より作成)

(3) 記事を使った現代社会考査問題 3.11実施 (3学期)

○次の資料を読んで、現在、ウクライナで起きている出来事について、A の国名と日本という語句を入れて、知っていること、思っていることを150字以上240字以内で書きなさい。指定語句は、必ず使用すること。

**資料**

ウクライナで戦死した A 兵がスマートフォンに残したというやりとりが、国連総会で紹介された。どうして返事をくれないの、本当に訓練中なの、という母親の問いに兵士が返信している。「ママ、訓練じゃないんだ。本当の戦争が起きている。怖いよ」▼「ぼくたちは町中を爆撃している。民間人まで標的にしている。歓迎されると聞かされていたのに」。ウクライナの大使が読み上げたこの内容が本当なら、戦場の真実を最もよく伝えているのかもしれない▼自軍の犠牲について、A 政府が

生徒の解答例①

ロシアは、いま戦争に対して反対している人を捕まえたり、たくさんの命を奪っているようです。戦争への反対運動で捕まった人の中には小学生くらいの子がいたり、ロシアの攻撃で1歳くらいの子が命を落としたりと、大人がはじめた戦争のせいで子どもたちが傷ついているニュースを見てとても苦しくなるし、日本もいつまた戦争が起きてしまうのではないかと不安になります。また資料からロシアの人も苦しんでいることを知り、誰がこの戦争で報われ

るんだろうと思いました。(220字)

#### 生徒の解答例②

世界では、ロシアとウクライナが戦争をしています。ロシアはウクライナの NATO 加入を反対してて、それでもウクライナはアメリカ側に入りたいので、停戦会議を何回かしてもまだ戦争は終わっていません。日本も昔戦争をしてたくさんの命が失われました。ウクライナでもたくさんの命が失われています。私はウクライナがロシアの身方に入らないからといって戦争まで起こして従わせようとするロシアは良くないと思います。もっとたくさんの命が失われる前に戦争がなくなって欲しいと思いました。

(226字)

(4)「ペタッとSDGs(新聞ふせん学習)」と模擬投票では以下のループリック表(4段階)を使って生徒に自己評価もしてもらいました。

- ①知ったことを使って意見を書いてある。
- ②知ったことを正確にを使って意見を書いてある。
- ③知ったことを使って、他者の意見や資料を比較しながらわかりやすく意見を主張している。
- ④知ったことを使って、他者の意見と複数の資料を比較しながら、わかりやすく前向きな意見(公正な判断)を主張している。

### 3 結果

(1)「ペタッとSDGs(新聞ふせん学習)」(朝日新聞)

情報を共有することで新たな気づき生まれ、SDGsの課題解決に向けた意識が高まりました。

(2)新聞記事を使った衆院選模擬投票(比例代表のみ)

他者の考えを聞くことで、主権者としての意識が高まりました。

(3)新聞記事を使った現代社会学年松考査問題  
3.11実施

無答者0人(書いていない生徒38人中0人)

(4)生徒自己評価ループリック表  
(生徒262～220人で実施)

ア(1)の結果 ①72% ②25% ③3% ④0%

イ(2)の結果 ①52% ②38% ③8% ④2%

### 4 考察

(1)、(2)、(3)の実践で、何が公正か判断する力が身につけている生徒が多くなったことがわかりました。

また、(2)に関しては、政治的中立が求められている教員にとって、模擬投票を行うための教材として新聞は適当であり、できれば複数の新聞社の政党の主張比較表を使用するとよりよい教材となると思います。

(3)では、解答例のような解答がほとんどで、生徒が新聞記事などを通して知ったことを使って、主体的に考え前向きな意見を述べていると言えます。

(1)、(2)、(3)の実践で、生徒はループリック表の①から②、②から③、④へと確実に学力が向上しています。

来年度は、より詳細な考察ができるように頑張ります。



# 特別支援学校における新聞を活用した学習

市川市立須和田の丘支援学校 青木 眞子・土屋 健人  
上村 拓哉・関 優磨

## 1 はじめに

本校は、知的な遅れや体の不自由さ等、特別な支援を必要とする児童生徒が通う特別支援学校である。稲越校舎では小学部、須和田校舎では中学部と高等部の児童生徒がそれぞれのニーズに応じた学習活動を行っている。簡単な漢字を含む文章を読み、自分で短い文を考えて書くことができる児童生徒もいれば、平仮名を読んだりペンを持つたりすることが難しい児童生徒がおり、その実態は様々である。

昨年度から実践校としてN I Eに取り組んできた。上記実態はあるが新聞記事に興味をもったり、読むことを楽しんだりする様子が見られることから、必要な支援を受けながら新聞に日々触れることで、新聞から様々なことを知る楽しさや新聞を利用して何かを作り上げる達成感を味わいながら、学びの力を高めていくことができるのではないかと考える。本年度は、各学部・学年・学級・委員会など様々な場面でN I Eを取り入れ、児童生徒が持っている力を存分に生かしながら、知的障害の特別支援学校における新聞教育を進めた。

## 2 つけたい力

- 文字の読み書きの習得や言葉への興味関心を広げる。
- 材料として新聞に触れ、芸術的な感覚を体感する。
- 新聞やインターネット、取材で得た情報を、文章や写真などで表現し、他者に伝える。

## 3 実践状況

### (1) 小学部 「こいのぼり」(国語 6 学年)

①教師が切った楕円の新聞紙を、ハサミで半分に切る。

②好きな色のうろこを選び、鯉型の画用紙に自由に貼り付ける。

③最後に目を描いた白丸シールを貼って完成。



### 成果

- ・新聞のカラフルな紙面を生かして、こいのぼりのうろこに使った。様々な色の中から、一人ひとりが好きな色や同じ色にこだわって選んだりして、オリジナルの作品を作ることができた。
- ・重ねたり規則的に並べたり、うろこの数を自由に決めたりして、デザインを楽しむことができた。
- ・支柱は、新聞紙を細長く丸め、立体感を出すことができた。

### (2) 中学部 「新聞委員会」(1～3 学年)

週1回「かがやき新聞」を作成し、毎月新聞を発行してきた。身近な題材を生徒たちで選び、記事の内容を決めた。本やインターネットでの調査、取材、全校に知らせたい新聞記事の切り抜きをまとめて記事にした。事前に取材の練習をしてから、校内にいる教師や生徒にインタビューを行った。



### 成果

- ・生徒の得意なこと(文章を書く、写真を切って貼る、模様をつける等)を分担したことで、全

員が活動に参加できた。

- ・取材では、質問項目を考え、友だちや教師と言葉のやりとりをすることで、コミュニケーション力が向上し、聞き取ったことを書き取る力がついた。
- ・取材をした生徒からは「色々なことが聞けて楽しかった」「本物の記者さんみたいになれて嬉しかった」等の感想が聞けた。
- ・年度当初に新聞で工作や写真（記事）探しゲーム等を行ったことで、新聞に興味をもつ生徒が増えた。「〇〇さん金メダルとったのか」「〇〇県は大雪だったのか」等つぶやきながら、新聞に目を通す様子が見られた。



### (3) 高等部

#### ①「防災教育」(総合的な探究の時間 1学年)

防災学習では、災害時の命の守り方や災害の対策について調べてまとめた。調べ学習後には防災グッズの政策に取り組み、災害時に履物がないことを想定し、足を守るという視点から新聞スリッパを作った。生徒たちは、新聞紙がスリッパになる様子を見て驚きながら、真剣な表情で制作していた。自分で作ったスリッパを嬉しそうな表情を浮かべ履き心地を確かめていた。

「簡単に作れた」

「思っていたより



履きやすい」など様々な感想が出た。その他に新聞船型食器、新聞コップの制作を行った。実際の災害時にも身近なものを使ってできることを見つけていけるような力を今後も育てていきたい。

#### 成果

- ・生徒たちは今回の防災学習を通して、新聞には情報を得るだけでなく、災害時にも役立つことを知ることができた。

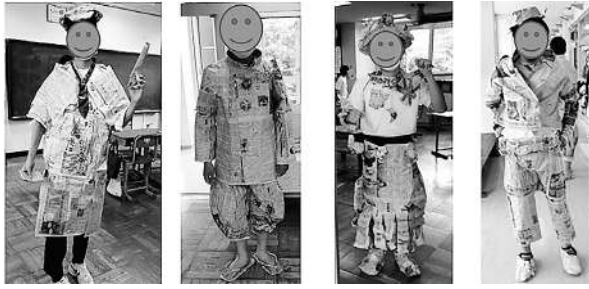


#### 課題

- ・生徒によっては、一人で折ることが難しい物もあった。誰でも取り組やすい支援方法を検討していく必要がある。

#### ②「新聞紙ファッションショー」(美術 2学年)

学級ごとに決めたテーマ沿って、洋服やアクセサリー等を新聞紙とテープのみで作成した。洋服作りでは、新聞紙を2枚重ね、のりで貼り付けて強度を上げたり、腕と胴の部分を別々で作成し、それをセロハンテープで貼り合わせてスーツを作ったり、輪っかをつなげて手錠を作ったりと様々な工夫が見られた。1つ1つ時間をかけて作ったこともあり、生徒たちは楽しそうに取り組んでいた。単元の最後に行ったファッションショーでは、モデルが登場すると、「すごい」「本当の服みたい」という声が上がった。



#### 成果

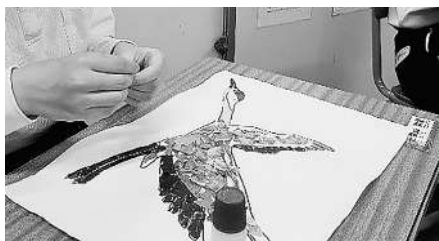
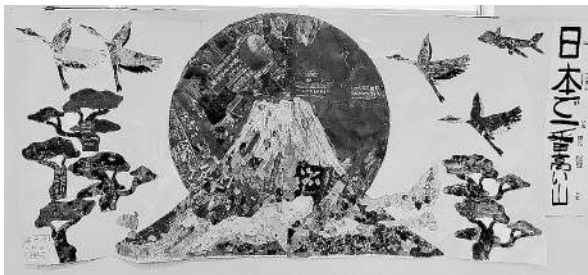
- ・新聞にたくさん触れたことで、新聞の内容にも目を通すきっかけとなった。

#### 課題

- ・新聞は伸縮性がないため、動くとき切れてしまうことがあった。大き目のサイズで作るとよい。

#### ③「新聞アート 富士山」(美術 3学年)

修学旅行の行き先「山梨県」に合わせ、新聞の写真や広告のカラー部分を使い、「富士山」を作成した。各クラスでパーツを振り分け、色分けした紙を適切なサイズに切ったり、下書きに沿って指定された色を貼ったりした。クラスごとに完成したパーツを貼り合わせ、1つの作品として仕上げた。出来上がった作品を見て「わあすごい」と歓声が上がった。



#### 成果

- ・共同作品を作る機会が少なかったため、出来上がったときの生徒たちの喜びがとても大きかった。

- ・切る、貼るなどの活動を分担し、みんなで1枚の作品を仕上げることができた。

#### 4 まとめ

実践1年目では、本校教職員のN I Eの認知度があまり高くなかったため、どのように知ってもらおうかということから始まった。小中高の各学部の代表から成るN I E部会を発足し、新聞の活用方法について意見を出し合ったり、新聞作りの仕方を一から学んだりした。児童生徒へどのようにアプローチしていくか対象学年や学習グループで検討し、新聞づくりや総合の学習での調べ学習、新聞を使った遊びなどをそれぞれの学部で実践した。夏季研修では、毎年講師の先生をお呼びして、新聞を読む視点や実際に取材した事件についての詳細、新聞を活用したゲーム等、児童生徒へすぐに実践できる内容を学んだ。

2年間活動を継続したことで、実践当初に比べ、学校内ではN I Eへの認知度が高まり、「以前より新聞を読むようになった」「授業でも活用した」という教職員の声も増えた。教職員が記事の内容を話題に出す機会が増えたことで、生徒が自分の意見を話したり、新聞に興味をもって目を通すようになったりする学級もあった。

校内の環境に関しては、新聞を読めるコーナーを設置したことで、生徒が記事に目を向ける機会も増えた。司書教諭の計らいで、図書室に新聞記事や新聞社が発行しているワークシート等を設置している。自然と児童生徒の目に入る場所に、興味を引く新聞記事や委員会が作成した新聞等を設置していけるよう、学級担任をはじめ、司書教諭とも連携し、環境整備にも務めていきたい。

実践校としての期間は終了したが、今後も本校ならではのN I Eの活用方法を探究し、日常生活に活かせる児童生徒の力に変えていきたい。



## 2021(令和3)年度N I E実践校一覧

	学校名	校長名	実践代表者名	所在地	TEL/FAX	備考		
1	船橋市立法典西小学校	峯川 治久	小路谷 学	〒 273-0046 船橋市上山町 1-111-5	047-337-7982 047-337-7983	2020・ 2021年度		
2	千葉市立緑が丘中学校	長 倉 健	斎 藤 聡	〒 262-0013 千葉市花見川区犢橋町 213-4	043-250-3803 043-298-9381	2020・ 2021年度		
3	浦安市立明海南小学校	津野瀬理恵	鈴木 裕貴	〒 279-0014 浦安市明海 5-5-1	047-382-1751 047-382-1783	2020・ 2021年度		
4	流山市立八木南小学校	佐藤 智子	小松菜津美	〒 270-0146 流山市芝崎 92番地	04-7158-1142 04-7158-1284	2020・ 2021年度	継続	
5	東金市立福岡小学校	新 田 篤	飯 森 敬	〒 283-0056 東金市砂古瀬 422-1	0475-52-5361 0475-54-2497	2020・ 2021年度		
6	木更津市立東清小学校	前田 達哉	永 瀧 裕美	〒 292-0036 木更津市菅生 114	0438-98-0424 0438-98-0985	2020・ 2021年度		
7	栄町立安食小学校	鈴木 佳子	北川 太一	〒 270-1516 印旛郡栄町安食 305番地	0476-95-0017 0476-95-6881	2020・ 2021年度		
8	市川市立須和田の丘支援学校	椎名 美幸	芳賀 裕美	〒 272-0825 市川市須和田 234-1(須和田校舎)	047-371-2258 047-373-1666	2020・ 2021年度		
9	千葉県立国府台高等学校	莉込 英昭	大塚 功祐	〒 272-0827 市川市国府台 2-4-1	047-373-2141 047-373-7902	2021・ 2022年度		新規
10	香取市立新島中学校	東 勝	松井 初美	〒 287-0816 香取市佐原ハ 4428	0478-56-0702 0478-50-3090	2021・ 2022年度		
11	市川市立宮久保小学校	松 田 智	石川 剛士	〒 272-0822 市川市宮久保 5-7-1	047-371-2747 047-371-2748	2021・ 2022年度		
12	千葉市立新宿中学校	根 本 厚	鹿子島美里	〒 260-0025 千葉市中央区問屋町 1-73	043-241-5887 043-244-5946	2021・ 2022年度		
13	市原市立市原中学校	福原 昌章	木下 和巳	〒 290-0011 市原市能満 1450	0436-41-3424 0436-42-2664	2021・ 2022年度		
14	習志野市立津田沼小学校	高 梨 秀胤	関 智 哲	〒 275-0016 習志野市津田沼 4-5-2	047-454-1326 047-454-1327	2021・ 2022年度		
15	野田市立北部小学校	木村ひろ子	中 村 瞳	〒 278-0046 野田市谷津 25-1	04-7122-2748 04-7122-2679	2021・ 2022年度		
16	酒々井町立酒々井小学校	中村太一郎	藤 川 敬介	〒 285-0927 印旛郡酒々井町酒々井 203	043-496-1041 043-496-4701	2021・ 2022年度		
17	長柄町立長柄小学校	矢 部 進	織 田 純子	〒 297-0206 長生郡長柄町山根 1619	0475-35-3105 0475-35-5472	2021・ 2022年度		
18	千葉県立四街道北高等学校	柴 崎 弘	内山 浩史	〒 284-0027 四街道市栗山 1055-4	043-422-1788 043-424-3937	2021・ 2022年度		

# 2021（令和3）年度 千葉県N I E推進協議会 役員

2021年5月1日 現在

会 長	藤 川 大 祐	千 葉 大 学 教 育 学 部 教 授
副 会 長	内 田 淳 一	千 葉 県 小 学 校 長 会 会 長
副 会 長	伊 東 隆 正	千 葉 県 中 学 校 長 会 会 長
副 会 長	篠 木 賢 正	千 葉 県 高 等 学 校 長 協 会 副 会 長
顧 問	富 塚 昌 子	千 葉 県 教 育 委 員 会 教 育 長
顧 問	磯 野 和 美	千 葉 市 教 育 委 員 会 教 育 長
幹 事	宮 内 教 夫	千 葉 県 小 学 校 長 会 副 会 長
幹 事	酒 井 純	千 葉 県 中 学 校 長 会 副 会 長
幹 事	本 宮 照 久 子	千 葉 県 高 等 学 校 長 協 会 幹 事
幹 事	金 坂 京 子	千 葉 県 特 別 支 援 学 校 長 会 副 会 長
幹 事	大 溝 木 圭 真	千 葉 県 教 育 庁 教 育 振 興 部 学 習 指 導 課 主 幹
幹 事	大 溝 口 真	千 葉 県 教 育 庁 教 育 振 興 部 学 習 指 導 課 指 導 主 事
委 員	松 田 京 平 浩	朝 日 新 聞 社 千 葉 総 局 長
委 員	斎 藤 洋 一	産 経 新 聞 社 千 葉 総 局 長
委 員	鬼 木 正 巳	東 京 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	真 鍋 正 巳	日 本 経 済 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	松 之 舎 茂 喜	日 刊 工 業 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	長 谷 川 豊 晴	毎 日 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	吉 山 隆 貴	読 売 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	山 田 成 護	時 事 通 信 社 千 葉 支 局 長
委 員	佐 久 間 大 介	共 同 通 信 社 千 葉 支 局 長
委 員	佐 藤 大 介	千 葉 日 報 社 編 集 局 長

監 査 (原則、各新聞社による九社会幹事)

アドバイザー	松 井 初 美	香 取 市 立 新 島 中 学 校 教 諭
アドバイザー	武 藤 和 彦	市 川 市 立 塩 浜 学 園 初 任 者 指 導 員
アドバイザー	神 尾 啓 子	千 葉 県 新 聞 教 育 研 究 所 主 宰
アドバイザー	石 川 剛 士	市 川 市 立 宮 久 保 小 学 校 教 諭
アドバイザー	芳 賀 裕 美	市 川 市 立 須 和 田 の 丘 支 援 学 校 教 諭
アドバイザー	大 塚 功 祐	千 葉 県 立 国 府 台 高 等 学 校 教 諭
アドバイザー	磯 貝 真 規 子	千 葉 県 立 匝 瑳 高 等 学 校 教 諭
アドバイザー	瀬 和 真 一 郎	松 戸 市 立 松 戸 高 等 学 校 教 諭
アドバイザー	木 村 早 苗	私 立 茂 原 北 陵 高 等 学 校 講 師
事務局 長	安 原 直 樹	千 葉 日 報 社 読 者 サ ー ビ ス 室 長

## 2022(令和4)年度N I E実践校一覧

	学校名	校長名	実践代表者名	所在地	TEL/FAX	備考
1	千葉県立国府台高等学校	臼井 武彦	大塚 功祐	〒272-0827 市川市国府台 2-4-1	047-373-2141 047-373-7902	2021・ 2022年度
2	香取市立新島中学校	鈴木 康祐	松井 初美	〒287-0816 香取市佐原ハ 4428	0478-56-0702 0478-50-3090	2021・ 2022年度
3	市川市立宮久保小学校	鷺崎 和也	石川 剛士	〒272-0822 市川市宮久保 5-7-1	047-371-2747 047-371-2748	2021・ 2022年度
4	千葉市立新宿中学校	石川 英明	鹿子島美里	〒260-0025 千葉市中央区問屋町 1-73	043-241-5887 043-244-5946	2021・ 2022年度
5	市原市立市原中学校	米沢 久志	木下 和巳	〒290-0011 市原市能満 1450	0436-41-3424 0436-42-2664	2021・ 2022年度
6	習志野市立津田沼小学校	笹生 康世	金井 達也	〒275-0016 習志野市津田沼 4-5-2	047-454-1326 047-454-1327	2021・ 2022年度
7	野田市立北部小学校	木村ひろ子	宇田川貴大	〒278-0046 野田市谷津 25-1	04-7122-2748 04-7122-2679	2021・ 2022年度
8	酒々井町立酒々井小学校	中村太一郎	藤川 敬介	〒285-0927 印旛郡酒々井町酒々井 203	043-496-1041 043-496-4701	2021・ 2022年度
9	長柄町立長柄小学校	富永 裕之	織田 純子	〒297-0206 長生郡長柄町山根 1619	0475-35-3105 0475-35-5472	2021・ 2022年度
10	千葉県立四街道北高等学校	米沢 努	内山 浩史	〒284-0027 四街道市栗山 1055-4	043-422-1788 043-424-3937	2021・ 2022年度
11	市川市立鬼高小学校	早川 淳子	吉田美紗希	〒272-0015 市川市鬼高 2-13-5	047-335-0304 047-335-0305	2022・ 2023年度
12	香取市立佐原小学校	八木 達彦	川島 京子	〒287-0003 香取市佐原イ 1870	0478-52-2044 0478-54-7063	2022・ 2023年度
13	船橋市立芝山東小学校	細野 正子	高橋 若奈	〒274-0816 船橋市芝山 3-19-1	047-464-3423 047-464-3424	2022・ 2023年度
14	松戸市立河原塚中学校	荒木 美穂	佐々木 淳	〒270-2254 松戸市河原塚 190	047-391-6161 047-391-8669	2022・ 2023年度
15	白井市立白井第一小学校	坂野 仁	有田 英司	〒270-1431 白井市根 105番地	047-492-0513 047-492-3006	2022・ 2023年度
16	鴨川市立天津小湊小学校	桂 幸一	粕谷 賢二	〒299-5503 鴨川市天津 1166	04-7094-0104 04-7094-0607	2022・ 2023年度
17	横芝光町立日吉小学校	石川 豊計	石井 浩人	〒289-1701 山武郡横芝光町篠本 5177	0479-85-1234 0479-85-1420	2022・ 2023年度
18	千葉県立土気高等学校	越川 淳	酒井 将仁	〒267-0067 千葉市緑区あすみが丘東 2-24-1	043-294-0014 043-295-1863	2022・ 2023年度
19	千葉市立磯辺第三小学校	吉川 則子	五十嵐裕一	〒261-0012 千葉市美浜区磯辺 1-25-1	043-277-1021 043-279-4049	2022・ 2023年

継続

新規



# 2022（令和4）年度 千葉県N I E推進協議会 役員

2022年5月1日 現在

会 長	藤 川 大 祐	千 葉 大 学 教 育 学 部 教 授
副 会 長	山 下 秋 一 郎	千 葉 県 小 学 校 長 会 会 長
副 会 長	櫻 井 比 呂 樹	千 葉 県 中 学 校 長 会 会 長
副 会 長	横 瀬 正 史	千 葉 県 高 等 学 校 長 協 会 副 会 長
顧 問	富 塚 昌 子	千 葉 県 教 育 委 員 会 教 育 長
顧 問	磯 野 和 美	千 葉 市 教 育 委 員 会 教 育 長
幹 事	酒 井 昌 史	千 葉 県 小 学 校 長 会 副 会 長
幹 事	酒 井 純	千 葉 県 中 学 校 長 会 副 会 長
幹 事	佐 藤 晴 光	千 葉 県 高 等 学 校 長 協 会 監 事
幹 事	井 上 宏 樹	千 葉 県 特 別 支 援 学 校 長 会 副 会 長
幹 事	神 田 み の り	千 葉 県 教 育 庁 教 育 振 興 部 学 習 指 導 課 主 幹
幹 事	溝 口 真	千 葉 県 教 育 庁 教 育 振 興 部 学 習 指 導 課 指 導 主 事
委 員	松 田 京 平	朝 日 新 聞 社 千 葉 総 局 長
委 員	斎 藤 浩 淳	産 経 新 聞 社 千 葉 総 局 長
委 員	安 藤 淳	東 京 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	真 鍋 正 巳	日 本 経 済 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	鳥 羽 田 継 之	日 刊 工 業 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	長 谷 川 豊	毎 日 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	小 布 施 裕 一	読 売 新 聞 社 千 葉 支 局 長
委 員	依 田 直 哉	時 事 通 信 社 千 葉 支 局 長
委 員	佐 久 間 護	共 同 通 信 社 千 葉 支 局 長
委 員	佐 藤 大 介	千 葉 日 報 社 編 集 局 長
監 査	(原則、各新聞社による九社会幹事)	
アドバイザー	松 井 初 美	香 取 市 立 新 島 中 学 校 教 諭
アドバイザー	武 藤 和 彦	市 川 市 立 妙 典 中 学 校 初 任 者 指 導 教 員
アドバイザー	石 川 剛 士	市 川 市 立 宮 久 保 小 学 校 教 諭
アドバイザー	芳 賀 裕 美	市 川 市 立 東 国 分 中 学 校 教 諭
アドバイザー	大 塚 功 祐	千 葉 県 立 国 府 台 高 等 学 校 教 諭
アドバイザー	磯 貝 真 規 子	私 立 千 葉 敬 愛 高 等 学 校 特 任 教 諭
アドバイザー	瀬 和 真 一 郎	松 戸 市 立 松 戸 高 等 学 校 教 諭
アドバイザー	木 村 早 苗	私 立 茂 原 北 陵 高 等 学 校 講 師
アドバイザー	流 雄 希 子	浦 安 市 立 美 浜 北 小 学 校 教 諭
アドバイザー	富 永 加 代 子	市 川 市 立 百 合 台 小 学 校 非 常 勤 講 師
事 務 局 長	安 原 直 樹	千 葉 日 報 社 読 者 サ ー ビ ス 室 長